【博物館】　施設名 ４館　処理番号 1211ABCD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-(2)-①（４館共通）1)、2)

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館総務課 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館総務課	事業責任者	課長　沖松健次郎 課長　阿部　勝 課長　大西真一 課長　執行正一

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・2年度に引き続き、アンケート集計方法は来館者に記入を依頼する形とした。アンケート結果については館内で共有し改善に努めた。また、ウェブサイトに寄せられる意見についても可能な限り速やかに関係部署に周知し、必要に応じて回答や改善を図った。
（京都国立博物館）
・平常展開催期間中にアンケートの記入場所を設置しただけでなく、ウェブサイトや口頭により寄せられた意見・問合せを担当部署・担当者に共有し、必要に応じて回答や改善などの対応を行った。
（奈良国立博物館）
・館内の2か所に記述式アンケートの記入場所を設け、通年でアンケートを実施した。また、3年11月16日～12月9日及び4年1月24日～2月4日にはウェブサイト上でのアンケートを試行的に実施し、従来よりも幅広い層からより多くの回答を集められるよう工夫した。アンケート結果及びウェブサイトを通じて寄せられた当館への意見・要望については、速やかに関係部署と情報を共有し、改善に努めた。
（九州国立博物館）
・2年度から中止していた文化交流展(平常展)に対するアンケート調査を4年1月より再開した。寄せられた意見は館内で共有し、必要に応じて改善を図った。

【補足事項】
（東京国立博物館）
・アンケート集計方法は来館者に記入を依頼することで、会場内にアンケート用紙を設置する集計方法に比べ、よりフラットな意見を聴取することができた。また、展示の満足度についても非常に高い結果となった。
（京都国立博物館）
・来館者の意見や要望を踏まえて、展示室内の案内表示の追加や調整を行い、観覧環境の改善に取り組んだ。
（奈良国立博物館）
来館者や館内職員から寄せられた意見や要望を踏まえて、速やかに館内の掲示物を追加・修正するなど、よりよい観覧環境を実現するため努力した。
（九州国立博物館）
・来館者の意見やニーズを考慮し、4月6日より文化交流展示室内の写真撮影を可能とした。

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
平常展の来館者アンケート満足度								
東京国立博物館	87.9%	85%	B		87.3	89.2	90.2	85.8
京都国立博物館	82.1%	81%	B		84.4	89.7	79.1	78.5
奈良国立博物館	92.1%	92%	B		90.1	92.5	93.2	94.2
九州国立博物館	81.0%	76%	B		77.8	73.6	77.1	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	4館とも平常展来館者アンケート満足度において目標値を達成することができた。平常展については、4館にて多くの特集を組み、アンケート結果からは、何度来ても楽しめるなど好意的な意見が多く寄せられた。今後も魅力ある特集を組み、いつ来ても新たな感動を与えられるような展示を企画したい。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者アンケートの満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響により、3年度も来館者数自体は伸び悩んだが、2年度よりも回復傾向にある。来館者アンケート満足度は4館とも目標値を達成することができており、中期計画の初年度として順調に計画を遂行できているといえる。4年度以降も来館者の意見に耳を傾けながら、コロナ禍での展示の在り方を常に模索し続けていきたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1212A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　①平常展		
【年度計画】 ・Ⅰ-1-(2)-①（東京国立博物館）1)、2)、3)、4)			
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　沖松健次郎

【実績・成果】

ほぼ計画通りの平常展を展開し、来館者からは概ね好評であった。東京都の要請による臨時休館（4月25日～5月31日）の影響を受けた特集展示は会期を延長するなど、臨機応変に対応することができた。

1）展示計画に基づき、395回（総件数5,837件）の展示替えを実施した。

2）26件（2年度からの継続特集1件を含む）の特集展示をすべて実施することができた。

3）新型コロナウイルスの影響を受け、文化庁から中止の申し出があったため、「令和3年新指定 国宝・重要文化財」（11月30日～12月12日）は中止となった。

4）日本文化や歴史への理解促進を図るため、本館4室「茶の美術」と9室「能と歌舞伎」にデジタルサイネージを引き続き設置し、展示作品の使用例や文化的背景を補足する映像を上映した。

また、文化財活用センターと共同で、本館特別3室に日本美術に親しむための体験型展示「日本美術のとびら」を6月より開室した。

【補足事項】

本館14室にデジタルサイネージを設置し、特集展示のタイトルや内容を掲示できるようにした。また、新デザインの題箋を試験的に導入し、作品解説のありかたを再検討するなど、見やすく分かりやすい展示になるよう改善を重ねている。

	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
平常展の来館者数	211,052人	－	－		1,030,180	989,508	1,030,652	166,639

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ２年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、来館者数は211,052人であった。その中で、計画したすべての特集展示を実施し、所蔵品の新たな魅力と価値を発信することができたこと、これまでにないテーマの特別企画を実施して若い世代の集客につなげることができたことは大きな成果であった。 またトーハク新時代プランに基づく映像コンテンツの設置も引き続き実行できており、来館者の日本文化と展示への理解促進に努めた。

【中期計画記載事項】

平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスへの対応で臨時休館や日時指定入館など制約があったものの、予定されていた展示替え及び特集展示をすべて実施することができた（文化庁から中止の申し出があったものを除く）。 また、文化財活用センターと共同での体験型展示「日本美術のとびら」の開室や、デジタルサイネージの設置、並びにユニバーサルデザイン対応の新デザインの題箋を試験的に導入するなど、より親しみやすく、見やすくわかりやすい展示環境の実現に向けた一歩を踏み出せたことは、中期計画の初年度として意義が大きい。 ４年度以降も、新題箋への来館者の反応をリサーチして随時改定するなど、来館者の満足度向上に向けた継続的な努力と、より魅力ある展示のための新しいアイディア出しを行っていく。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1212B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-①（4館共通）2)（京都国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
2）平常展来館者数は、35,440人であった。また、展示替件数は749件であった。
（京都国立博物館）
1）特別展前後の準備・撤収期間を考慮し名品ギャラリー（平常展示）期間を設定した。展示替作業に応じて、平成知新館内の一部の展示室のみ開室する部分開館も実施し、柔軟に対応した。
2）年度計画に基づき、1件の特別企画、4件の特集展示を開催した。

【補足事項】
・特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」は、多神教を奉じた古代ギリシア世界と、日本の信仰風習とを対比させながら、当館収蔵の名品を展示した。新型コロナウイルスの影響を受け2年度から延期していたが、3年度は実施することができた。
・新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」では、新春恒例の干支にちなんだ展示として、日本や東アジアの様々な虎をモチーフとした作品を展示した。ファミリー向け展示として、小学校高学年以上向けを想定したやさしい解説文や、小学校低学年以上を想定したワークシート（多言語）を作成し、幅広い世代に向けた展示とした。
・特集展示「新収品展」では、元年度から2年度にかけて当館が新たに収集した絵画・書跡・染織・漆工・金工・陶磁など様々な分野の作品約40件を展示した。
・特集展示「後期古墳の実像―播磨の首長墓・西宮山古墳―」では、当館とたつの市立龍野歴史文化資料館等の所蔵資料と共同研究の成果をあわせて展示し、従来知られていなかった地方有力首長墓の実像を紹介した。
・特集展示「雛まつりと人形」では、華やかな御殿飾り雛を中心に、各種の雛人形とさまざまな京人形を展示した。

「オリュンピア」展　展示風景

「寅づくし」展　展示風景

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
平常展の来館者数	35,440人	－	－		136,862	146,314	158,664	18,941

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響を受け、来館者数は伸びなかったが、庭園の無料開放実施など、状況に柔軟に対応できた。新春特集展示「寅づくし」では、当館公式キャラクターのトラりんの元となった「竹虎図」を展示し、積極的な広報につなげた。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度から実施延期となった特別企画をはじめとして、3年度は当初予定通りの展覧会を実施することができた。新型コロナウイルスの影響により、来館者数自体は伸びなかったものの、当館収蔵の名品を、多言語での題箋や音声ガイド（ジュニア版含む）、ワークシート等を活用して展示することで、幅広く来館者の新規開拓を図ることができ、中期計画の初年度として十分な成果を上げたといえるため、B評価とした。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1212C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-①（奈良国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　吉澤　悟

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
1)下記のとおり名品展を実施し、特集展示を１件開催した。（展示総件数：260 件、展示替件数：44 件）
・名品展「珠玉の仏たち」　　なら仏像館　４月１日～4 年３月 31 日
・名品展「中国古代青銅器」　青銅器館　　４月１日～4 年３月 31 日
・特集展示「新たに修理された文化財」　西新館　４年３月１日～3 月 27 日
2)下記のとおり特別陳列を開催した。
・特別陳列「お水取り」　西新館　４年２月５日～3 月 27 日

【補足事項】
・なら仏像館における名品展では、常時90件以上の仏像を公開した。特別公開として、当館の文化財保存修理所における修理が完了した奈良県野迫川村の高福寺所蔵の薬師如来坐像と、石川県白山市尾添区所蔵の阿弥陀如来立像を公開した。また、新たに個人から寄託を受けた吉野山伝来の仏像を調査の成果と共に公開した。また、主要な作品に子供向けの解説パネルを設置した。
・例年12月から開催している名品展「珠玉の仏教美術」は、同会場で特別展「絵画の殿堂　藤田美術館展」を開催することとなったため、開催しなかった。
・例年12月に開催している特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」は、展示室の一部補修と4年度に計画している春日信仰関連の展覧会準備のため、開催しなかった。

特別陳列「お水取り」

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
平常展の来館者数	52,178人	－	－		135,776	140,829	160,869	43,262

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度と比較して、新型コロナウイルス感染拡大の影響による奈良県への来訪者の減少は若干改善してはいるものの、上半期の感染拡大が大きく影響して来館者数は伸びなかった。しかし、なら仏像館では例年とほぼ同じ件数の展示替を行ったほか、新知見の積極的な公表に努めるなど、来館を促す取組みに努めた。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 仏教美術の専門館として他所にみられない高い質と量を備えた展示が開催できた。また、名品展や特集展示など随所において最新の研究成果を発信することができた。特に仏像館では、中期計画の初年度として、若年層の来館者の満足度を向上させる取組みを実施することができた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1212D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-①（九州国立博物館）1)、2)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（九州国立博物館）
1）計画に従って特集展示・特別公開を実施し、研究成果を公開するとともに、図録の刊行、講演会の実施等により、成果の普及を図った。
2）実物展示に加えてレプリカや再現文化財も有効に活用しながら、従来の展示とは違った切り口から文化財への関心を喚起し、鑑賞の幅を広げる取り組みを行った。

【補足事項】
・特集展示「古代ガラスの世界－岡山市立オリエント美術館蔵品展－」は岡山市立オリエント美術館の優品によって、西アジアにおけるガラス誕生以前から中世にかけてのガラスの歴史を紹介した。ガラス製品がもつ多様な色彩や造形美は、多くのお客様に喜んでいただけた。
・特集展示「没後350年記念 明国からやってきた奇才仏師 范道生」では、江戸時代前期に6年ほど日本に滞在し、黄檗宗の仏像の造像などで活躍した中国人仏師・范道生（1635～1670）の足跡に光を当てた。作品の魅力を最大限に引き出した会場入り口の造作など、演出にも力を入れた。図録も刊行した。
・特集展示「琉球王国文化遺産集積・再興事業巡回展 手わざ―琉球王国の文化―」は、近代化の波や戦災などによって失われた琉球王国の貴重な文化財とその手わざを現代によみがえらせた取り組みの成果を公開した。修復に携わった職人の貴重な声をパネルや講演会などで広く紹介することで、作品の美しさだけでなく、修復事業の意義にも関心をもっていただく契機となった。

特集展示「范道生」の展示会場入り口

・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」では、徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝3点（「刀掛」、「寄掛」、「掛硯箱」）を展示した。あわせて、南部家ゆかりの大揃いの婚礼調度も合わせて紹介した。
・「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」は2年度に引き続き、実物とともに露出でレプリカや再現文化財を展示することで、ガラスケース越しの観察やキャプション解説からだけでは分からない作品の魅力を発信した。このほか、4月6日より文化交流展示室で写真を撮影できるようにするとともにSNSでも使用できるようにして、お客様へのサービス向上を実現した。

	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
平常展の来館者数	104,898人	－	－		350,848	349,114	348,563	81,230

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画に従って多彩な特集展示を行ったほか、年齢層の違いや障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しめる展示の取り組みを行い、年度計画を達成できた。来館者数は2年度に比べ約23,600人増加した。 4年度以降も新型コロナウイルス感染対策など講じながら、特集展示を通して研究成果を公開していく。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、中期計画の初年度として計画に沿った特集展示・特別公開などを開催した。4年度は日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に一層資するべく、種子島の代表的な文化財や皇室ゆかりの伊万里陶磁器を紹介する特集展示を計画している。3年度同様、来館者数、満足度の向上に寄与するよう取り組む。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1220A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　丸山士郎

【実績・成果】
２年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、オンライン等による日時指定制を導入した。またオンライン予約が難しい来館者向けに当日日時指定券を準備するなど、日時指定予約のハードルを下げる運用を実施した。

【補足事項】
日時指定制により、快適な観覧環境とすることができた一方、人気のある展覧会では予約受付開始直後に日時指定枠が埋まり、観覧できない方が多く出る状況にもなった。今後は新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、より多くの方が来館できるよう運用について検討していく。

【評価指数】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
特別展の来館者アンケート満足度	91%	86%	A		86.4	84.2	86.6	85.5
国宝　鳥獣戯画のすべて	94.1%	－	－		－	－	－	－
聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ	85.3%	－	－		－	－	－	－
聖徳太子と法隆寺	90.6%	－	－		－	－	－	－
春夏秋冬	95.3%	－	－		－	－	－	－
最澄と天台宗のすべて	90.7%	－	－		－	－	－	－
ポンペイ	90.3%	－	－		－	－	－	－
体感！日本の伝統芸能	90.9%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 各展覧会とも非常に高い満足度を得ることができた。2年度に引き続き導入した日時指定制により、来館の手続きの煩雑さはあったが、快適な観覧環境の中で観覧できたことなど、好意的な意見が多く寄せられた。特に動く歩道を導入した特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」では、混雑が緩和されストレスなく観覧できたこと、また絵巻本来の鑑賞方法である手元で巻物を動かしながら見る感覚を体験できたことなどが評価され、非常に高い満足度となった。以上のことなどから、所期の目標を大きく上回る成果をあげたと判断し、A評価とした。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（東京国立博物館）年３～４回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新たな中期目標期間となり、満足度の目標値が大幅に高くなったが、初年度となる3年度ではそれを大きく上回ることができた。今後も質の高い企画を維持しつつ、入館方法、会場構成を含め来館者が快適に観覧できる展覧会となるよう検討を続ける。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1220B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

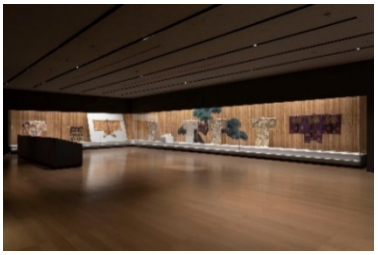
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　来館者へのアンケート調査を実施した。
イ　新型コロナウイルス感染予防のため、2年度に引き続き、来館時の注意事項を多言語（日・英・中・韓）やピクトグラムを活用して周知し、安心して観覧できる環境を設定した。
○凝年国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」
・緊急事態宣言の発令を受け一時臨時休館したが、早朝開館を実施し、来館者の獲得に努めた。
・鑑真和上坐像の展示にあたって、坐像周辺を除き展示ケースを黒色シートで囲むことにより、寺院内で鑑賞しているかのような没入感を与える工夫を施した。
○特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」
・早朝開館に加え事前予約優先制を導入し、展示室内の混雑緩和を図った。
・展覧会のテーマである文化財保護について紹介するためのコラムを、柱型造作で設置し、多言語（日・英・中・韓）によって、我が国における文化財保護を広く伝えることができた。
○特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」
・早朝開館に加え事前予約優先制を導入し、展示室内の混雑緩和を図った。
・能楽関連作品の展示にあたり、展示ケース内壁面に能舞台を想起させる意匠を施し、本展覧会独自の展示空間を提供した。作品と芸能空間のつながりが強く印象に残ったとの意見が来館者アンケートに多く見られた。

【補足事項】

左：「京の国宝」での
文化財保護関連コラムの柱型造作

右：「畠山記念館の名品」での
能舞台を想起させる展示



【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
特別展の来館者アンケート満足度	80.5%	82%	B		81.9	94.6	80.6	73.9
鑑真和上と戒律のあゆみ	73.4%	－	－		－	－	－	－
京の国宝	88.5%	－	－		－	－	－	－
畠山記念館の名品	76.1%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度同様、新型コロナウイルス感染拡大抑制のため、一時期臨時休館のやむなきに至ったが、早朝開館や事前予約制度を導入するなどの対策により、全ての展覧会を一定期間開催し、一定数の来館者を得ることができた。アンケートの定量的評価では8割方の来館者が満足していることに加え、観覧者の理解促進のために展示空間に凝らした工夫が目立って高く評価されていることは、来館者数の少なさを補うに足る成果と自負している。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（京都国立博物館）年１～２回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 各展覧会において、より没入感をもって作品を鑑賞できる環境を提供することに努めた。来館者アンケートでは、目標値と同程度の水準の満足度を得ることができ、他館で2年度に予定されていた展覧会の中止を受け、新たに仕立て直した「京の国宝」展を急遽開催し、中期計画では「年1～2回程度」を目標値として設定している特別展を3回開催したことは特筆すべき成果と自負している。よってＢと自己評価する。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1220C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

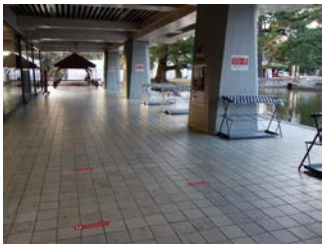
【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・館内に設置した記述式アンケート及びウェブサイト上でのアンケートの集計結果、並びにウェブサイトを通じて寄せられた意見・要望を速やかに関係部署で共有し、改善に努めた。
・定期的に接遇スタッフの打ち合わせを実施して来館者からの意見・要望などを共有し、よりよい展覧会運営のために努力した。

【補足事項】
（４館共通）
ア
・従前ボランティアの協力のもと実施していた対面アンケートについては、新型コロナウイルスの影響が続いている現状に鑑み、2年度に引き続き実施を見送った。ただし、記述式アンケートを館内の複数箇所に常時設置するとともに、来館者の目に留まりやすいよう掲示物を工夫し、より多くの回答を集められるよう努力した。
・第73回正倉院展では、入館待ち列での来館者同士のソーシャルディスタンス確保のため新館ピロティ床面に足元シールを貼り、来館者に見える形の感染症対策に取り組み、安心した観覧環境の提供に努めたことより、来館者の満足度向上に繋がった。

特別展「奈良博三昧」
アンケートコーナーの様子


「第 73 回正倉院展」
新館ピロティの様子

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定		29	30	元	2
特別展の来館者アンケート満足度	93.3%	89%	B	経年変化	88.1	89.8	91.4	91.1
聖徳太子と法隆寺	95.0%	－	－		－	－	－	－
奈良博三昧	96.8%	－	－		－	－	－	－
第73回正倉院展	92.0%	－	－		－	－	－	－
藤田美術館展	87.5%	－	－		－	－	－	－
聖林寺十一面観音	95.3%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 記述式アンケート及びウェブサイト上でのアンケートを実施し、幅広い層から回答を集められるよう工夫した。寄せられた意見・要望については、関係部署で内容を共有した上で適宜改善に努めた。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（奈良国立博物館）年２～３回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度に開催した特別展における来館者満足度は、目標値及び前中期目標の期間の実績を上回っており、中期計画を遂行できている。4年度以降もアンケートの結果などを活用し、引き続き特別展における満足度の向上を目指す。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1220D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-②-1)（４館共通）ア、イ

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（４館共通）
ア　特別展の開催にあたって、来館者アンケートを実施した。
・特別展「よみがえる正倉院宝物」においては、88.7%の満足度を得た。同展は宝物の模造事業を紹介する巡回展であるが、模造に従事した技術者に光を当てた、当館独自の教育普及展示などにより、高評価を得られた。
・特別展「皇室の名宝」においては、91.7%の満足度を得た。本展は、宮内庁三の丸尚蔵館の所蔵する名品をまとまった形で紹介する希少な機会であったが、同館のご協力のもと、九州にゆかりの宝物を多数ご出品いただいたことなども、高評価につながった。
・特別展「海幸山幸」においては、83.9%の満足度を得た。日本人と自然のかかわりを、日本神話を導入として、国宝・重要文化財を含む名品の数々で紹介することができた。
・特別展「最澄と天台宗のすべて」においては、92.6%の満足度を得た。国立3館を巡回する展覧会であるが、各館の立地などを考慮して展示作品が少しずつ異なっており、普段なかなか見られない作品を展示することができた。

【補足事項】

特別展「最澄と天台宗のすべて」会場風景

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定		29	30	元	2
特別展の来館者アンケート満足度	89.2%	86%	B	経年変化	87.2	86.7	84.0	89.2
よみがえる正倉院宝物	88.7%	－	－		－	－	－	－
皇室の名宝	91.7%	－	－		－	－	－	－
海幸山幸	83.9%	－	－		－	－	－	－
最澄と天台宗のすべて	92.6%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症の対策と両立しながらではあるが、目標を超える満足度を得ている。ただし、個別の展覧会に関しては、課題が残る。展覧会のテーマ性や特徴を的確に普及広報する努力を継続し、目標の維持や発展に努めたい。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（九州国立博物館）年２～３回程度
なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度通算では目標を超える満足度を得ており、中期計画に対し、着実に事業を進めている。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「鳥獣戯画のすべて」（4月13日～5月30日） （目標来館者数8万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課絵画彫刻室長　土屋貴裕

【実績】

展覧会名	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」
会　　期	4月13日(火)～6月20日(日)※4月25日(日)～5月31日(月)は臨時休館
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、高山寺、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
作品件数	41件（うち、国宝7件、重要文化財14件）
来館者数	129,349人(達成率162%)
入場料金	一般 2,000円、大学生 1,200円、高校生 900円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度94.1%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	国宝「鳥獣戯画」の全貌を紹介する展覧会。国宝4巻の全場面を一挙公開するとともに、かつて国宝4巻から分かれた断簡、さらに原本ではすでに失われた場面を留める模本の数々も集結した。また、「鳥獣戯画」が伝わった高山寺中興の祖・明恵上人を紹介すべく重要文化財「明恵上人坐像」なども展示した。
学術的意義	本展は国宝「鳥獣戯画」の全四巻全場面を会期中場面替えなしで公開するとともに、断簡、模本も交え、今日確認される「鳥獣戯画のすべて」を一堂に会した史上初の画期的な展観となった。あわせて「明恵上人坐像」は28年ぶりの寺外公開となり、借用に際してはCTによる調査などを実施することができた。 絵巻作品の画期的な鑑賞方法として「鳥獣戯画」甲巻の前に「動く歩道」を設置した。
教育普及	・連続講座「鳥獣戯画研究の最前線」を4月23日、24日に開催し、参加者数のべ276人であった。 ・小学校高学年・中学生向けの鑑賞の手引きとして、ジュニアガイドを作成した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	・人気作品である「鳥獣戯画」甲巻の鑑賞にあたっては、新型コロナウイルスの感染対策と混雑緩和のために「動く歩道」を設置した。 ・報道内覧会：4月12日（月）281人出席。ポスター、チラシについては会期変更及び事前予約の導入等情報を更新して再制作。交通広告：JR-NSW27駅28面、私鉄5社フレコミボード43駅、東急線・みなとみらい線 横浜駅「メガセット」など出稿。雑誌：美術の窓、別冊太陽、時空旅人別冊などに掲載。テレビ：日曜美術館「生中継！”鳥獣戯画展“スペシャル内覧会」。開幕前に生放送にて最新の会場の様子を紹介したことは展覧会広報として極めて意義があった。
補　足	 会場画像（動く歩道） 会場の様子

	3年度実績	目標値
来館者数	129,349人	80,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｓ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期途中で展覧会の一時中止などもあったが、来館者数は目標値を超えた。新型コロナウイルス感染拡大防止及び混雑対策として鳥獣戯画甲巻を鑑賞するために「動く歩道」という画期的な鑑賞方法を導入した。それにより混雑が緩和され、ストレスなく観覧できたと来館者の満足度も非常に高かった。また手元で巻物を動かしながら見るという絵巻本来の見方に近い鑑賞方法を提供できたことも特筆すべき点である。 日本美術の中でも最も魅力的な作品の一つである国宝「鳥獣戯画」及び、この類まれなる絵巻を伝えてきた高山寺と明恵上人に対する理解を深める企画となった。 以上のとおり、年度計画を大きく上回る成果をあげられたため、Ｓ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aイ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」（6月22日～9月12日）
（目標来館者数6万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	企画課長　丸山士郎

【実績】

展覧会名	特別展「国宝 聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」
会　　期	6月22日(火)～9月12日(日)(72日間)
会　　場	東京国立博物館　本館特別5室
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、文化庁、日本芸術文化振興会
作品件数	29件（うち、国宝2件、重要文化財1件）
来館者数	59,125人(達成率99%)
入場料金	一般1,500円(1,400円)、大学生800円(700円)、高校生500円(400円)、 中学生以下無料　※(　)内は前売日時指定券の料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度85.3%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	奈良県桜井市に所在する聖林寺の十一面観音菩薩像（国宝）は天平彫刻の名品で、日本を代表する仏像の一つである。法隆寺の地蔵菩薩像、正暦寺の日光菩薩像、月光菩薩像とともに、江戸時代までは同市の大神神社にあった。大神神社は本殿を持たず、三輪山を拝む自然信仰をいまに伝えるが、奈良時代には仏教の影響を受けて神社に付属する寺（大神寺、後に大御輪寺に改称）や仏像が作られた。本展では、大御輪寺にあった仏像や、大神神社の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展覧した。
学術的意義	大神寺安置の仏像が一堂に会するのは明治元年以来、約150年ぶりである。聖林寺十一面観音菩薩像は平成10年に奈良国立博物館の特別展「天平」に出品されたのが最初の寺外公開で、その後は寺外に出ていない。本展を機に多くの方々に「天平の美」を鑑賞してもらうため、十一面観音菩薩像を展示する最新の展示ケースには高透過のガラスに低反射の処置を施し、ガラスの存在に気付かないほど露出展示に近い効果を演出するなど、観覧者に像の美しさを間近で体感してもらえる展示手法を採用した。
教育普及	・展覧会の内容を掘り下げて理解するための動画を配信した。 ・小学校高学年・中学生向けの鑑賞の手引きとして、ジュニアガイドを作成した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：6月21日（月）1,781人出席。ポスター、チラシについては会期変更及等情報更新して再制作。交通広告：東京メトロ電飾看板（コルトン）5駅6面、東京メトロ（プラチナボード）15駅20面など出稿。雑誌：和楽など。テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」など。ほか当館ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNS等で情報発信を行った。展覧会公式ウェブサイトでは本展の関連動画を5本公開し、広報に努めた。
補　足	会場画像　 会場画像

	3年度実績	目標値
来館者数	59,125人	60,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 本展は、平成10年に奈良国立博物館に出品されたのが最初の寺外公開で、その後は寺外に出ていないという聖林寺の十一面観音菩薩像について、広く鑑賞してもらう機会とする特別展であった。当初は2年度に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、3年度に延期して開催した。3年度にも新型コロナウイルスの感染予防に伴う国内外の移動制限が継続したため、目標としていた来館者数に届かなかったが、来館した方々からはアンケートでの満足度では85.3%という評価を得ることができた。 また、オンラインギャラリートークを配信するなどの工夫を重ねた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aｳ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」（7月6日～令和4年2月20日）
（目標来館者数10万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部上席研究員　勝木言一郎

【実績】

展覧会名	マレーシア・イスラーム美術館精選 特別企画 「イスラーム王朝とムスリムの世界」
会　　期	7月6日(火)～4年2月20日(日)(192日間)
会　　場	東京国立博物館　東洋館12・13室
主　　催	東京国立博物館、マレーシア・イスラーム美術館
作品件数	204件
来館者数	125,463人(達成率125.5%)
入場料金	一般：1,000円、大学生：500円　※総合文化展料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	アンケートなし

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	時代、地域、ジャンルによらず、イスラーム文化全体に関する展覧会を、マレーシア・イスラーム美術館の全面的な協力を得て開催した。構成は、総論としてのムスリム世界の歴史と文化、各論としての 14 のイスラーム王朝のほか、「モスクの美術」「イスラーム書道芸術」「現代絵画」をテーマとする展示からなる。 主な展示作品としてはアカンサス文柱頭、エナメル彩騎馬鷹狩人物文鉢、ミフラーブ・パネル、宝飾ネックレスなどが挙げられる。
学術的意義	特定の国家や地域に偏ることなく、世界規模の視野でイスラーム美術を相対化させるための展覧会は、従来、当館のみならず、日本においても開催されてこなかった。したがって、本展の開催意義は日本における展覧会史上きわめて大きいといえる。
教育普及	新型コロナウイルス感染拡大のため、イベントの内容をワークショップから講演会へと改め、12 月 8 日、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」記念講演会（於平成館大講堂）を開催した。また講師の来日もかなわなかったことから、マレーシア・イスラーム美術館精選特別企画「イスラーム王朝とムスリムの世界」記念講演の動画（日英 2 言語）を製作、発信するとともに、展覧会会場でも上映した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	鑑賞者の理解を促すため、日英2言語併記の図録を編集、刊行した。また会場ではイスラーム教に関する映像（日英2言語）の上映、章解説や年表（日英中韓4言語）の掲示、作品目録、作品解説（日英中韓4言語）の配布を実施した。 新型コロナウイルス感染拡大による運営方法変更等に備え、チラシ・ポスター等の印刷物はごく少部数の制作とし、館内及び上野近隣施設等での掲出・配布を実施した。印刷物による広報の代わりに当館ウェブサイトや当館公式SNS、及びSNS広告の出稿など、若年層向けにインターネット媒体による広報に注力した。また、会期も長いため、ポスター(展覧会ビジュアル)について2種類制作した。
補　足	 ムスリム世界の歴史と文化　展示 モスクの美術　展示

	3年度実績	目標値
来館者数	125,463人	100,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大のため、来場を制限することとなったが、展覧会を通じて、日本におけるイスラーム文化の理解を促進できた。また、会期を長期間にわたって設定したことで、会場での密集をさけ、感染防止に努めた。世界規模の視野でイスラーム美術を相対化させた本企画は、日本において前例がなかったことや目標を大幅に上回る数の来館者に鑑賞してもらえた実績を踏まえ、Ａ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
エ　特別展「聖徳太子と法隆寺」（7月13日～9月5日）
（目標来館者数8万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長　浅見龍介

【実績】

展覧会名	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」
会　　期	7月13日(火)～9月5日(日)(49日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、法隆寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション、文化庁
作品件数	178件（うち、国宝24件、重要文化財82件）
来館者数	69,640人(達成率87%)
入場料金	【前売日時指定券】 一般 2,100円、大学生 1,300円、高校生 900円 【当日券】 一般 2,200円、大学生 1,400円、高校生 1,000円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度90.6%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	聖徳太子の1400年遠忌を記念した特別展。企画構成としては歴史的な聖徳太子の実像にはじまり、その後日本仏教の根幹として発達した聖徳太子信仰の広がりを法隆寺所蔵の作品を中心とした207件により展観した。特に法隆寺の歴史や場、儀式といった文脈のなかで作品がどのように伝わり、使用されてきたのか展示を通じて表現することに留意した。主な展示作品としては、御物「法華義疏」、法隆寺金堂東の間本尊「国宝　薬師如来坐像」、法隆寺聖霊院本尊「国宝　聖徳太子および侍者像」が挙げられる。
学術的意義	100年に一度の大遠忌に相応しい特別展として法隆寺の全面的協力により、普段は非公開である貴重な文化財の多くを公開した。特に「国宝　薬師如来坐像」は明治9年の奈良博覧会出品以降、出品の記録がなく、学術的にも本像を間近で拝観し得たことは、広く日本の歴史学・美術史学においても特筆すべきことであったと言える。また借用期間中にはCT撮影調査を行うなど、さらなる文化財理解に努めた。
教育普及	漫画形式の冊子として『NHKジュニアガイド　聖徳太子と法隆寺』（非売品）を刊行したほか、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、YouTubeでギャラリートークの配信を行った。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：7月12日（月）127人出席。ポスター、チラシを制作、DMを実施。交通広告： JR駅貼り44駅 、東武－日比谷線・半蔵門線ドア横など出稿。雑誌：サライ、和楽などに掲載。テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」。新しい試みとして、会期中に展覧会公式Twitterにて、展覧会場の様子を紹介する生中継を実施した。ほか、当館公式ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNSでも情報発信を実施。
補　足	 会場風景（第4展示室）

	3年度実績	目標値
来館者数	69,640人	80,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、事前予約制を導入し、入場者制限も行わざるを得ない状況であり、来館者数は目標を下回った。 しかしながら、アンケートでは満足度 90%を超える評価を得ており、100 年に一度の展覧会として聖徳太子と法隆寺にまつわる大変質の高い展示を行うことができ、学術的にも非常に意義の深いものとなったため、Ａ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aカ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
カ　特別企画「スポーツ NIPPON」（7月13日～9月20日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課登録室長　佐藤寛介

【実績】

展覧会名	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 特別企画「スポーツ NIPPON」
会　　期	7月13日(火)～9月20日(月)(62日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館企画展示室
主　　催	東京国立博物館、秩父宮記念スポーツ博物館、読売新聞社
作品件数	50件（うち、重要文化財3件）
来館者数	22,735人(達成率45%)
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	アンケートなし

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を記念して、日本スポーツの歴史と文化を紹介する展覧会である。内容は2章構成で、計50件を展示した。第1章では東京国立博物館が所蔵する美術工芸品から江戸時代以前の日本スポーツの源流を紹介し、第2章では秩父宮記念スポーツ博物館が所蔵する近現代スポーツ資料から明治時代以降の日本スポーツの発展を紹介した。
学術的意義	日本スポーツの歴史は古く、武士の武芸や神事、遊戯にルーツがあり、伝統文化として現代まで受け継がれている。そして、明治時代以降、西洋スポーツが広く普及し、オリンピックへの参加を通して国際的なアスリートたちが誕生・活躍した成果が1964年東京大会に結実した。こうした日本スポーツの歩みと魅力を、実物を通して多くの方々に知っていただくことができた。
教育普及	展示に対する理解を深めるためのオンラインギャラリートークを配信した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	当館ウェブサイトでの1089ブログでの紹介やSNS広告などを中心に広報を展開。雑誌:「美術の窓」、「相撲」ほか。インターネットメディア:「美術手帖」、「インターネットミュージアム」ほか。また、チラシは館内の特別展会場等を中心に配架し、来館者を誘導することに努めた。
補　足	平成館企画展示室（第1章） 平成館企画展示室（第2章）

	3年度実績	目標値
来館者数	22,735人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 本企画は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、国内外から東京を訪れる人々に向けて日本スポーツの歴史と文化を紹介するという時勢に応じた企画であった。そのため当初は 2 年度に開催予定であったが、3 年度に延期して開催した。3 年度にも新型コロナウイルス感染予防に伴う国内外の移動制限が引き続いたため、目標の来館者数には届かなかったが、オンラインギャラリートークを配信するなど、自宅からでも展示を楽しんでもらえるような工夫を重ねた。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aキ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 キ　特別展「春夏秋冬」（仮称）（9月4日～11月28日） （目標来館者数5万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課長　松嶋雅人

【実績】

展覧会名	春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46
会　　期	9月4日(土)～11月28日(日)(75日間)
会　　場	東京国立博物館　表慶館
主　　催	東京国立博物館、文化財活用センター、ソニー・ミュージックエンタテインメント、文化庁、日本芸術文化振興会
作品件数	14件(複製7点、映像インスタレーション7点)
来館者数	58,461人(達成率117%)
入場料金	一般・大学生　1,800円、高校生　1,000円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度95.3%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	本展では、春夏秋冬の花が表された7点の日本美術（複製）とともに現代のポップカルチャーをあわせて紹介した。7つの作品と現代を結ぶキーとなるのは、アイドルグループの乃木坂46である。メンバー1人1人が花に見立てられ、彼女たちのパフォーマンスが、映像インスタレーションによって、日本の人々が花に託した造形の本質を、季節を巡りながら示されていく展示とした。
学術的意義	乃木坂46が日々、表現している歌詞や世界観が文化財に重ねられていくことで、乃木坂46と日本の文化と、そして私たちが生きる日常／自然とが、地続きの存在であることを実感してもらえる展示を試みた。 本展を通じて、これまで古美術にふれる機会の少なかった方々や、博物館に来たことのない方々にも、文化財の魅力を感じてもらえる機会となった。
教育普及	―
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	本展のメインターゲットである若年層が学校、仕事帰りに来館できるよう、金・土は開館時間を20時までとするなど、開館時間を柔軟に設定することで、より多くの方に観覧の機会を提供することができた。 広報活動として、展覧会公式サイト、Instagram、Twitterでの展覧会情報発信や生配信、TBS「CDTVライブ！ライブ！」での本展会場及び本館大階段での乃木坂46によるパフォーマンス生中継などにより、若年層への周知を図ることができた。また、文化財活用センターの「ぶんかつブログ」内での展覧会紹介や総合文化展における実作品展示へと誘導するSNS広告(有料）により、従来の美術愛好者向けの広報も行った。
補　足	 会場写真 会場写真

	3年度実績	目標値
来館者数	58,461人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止策として、事前予約制を導入し、入場者制限も行わざるを得ない状況であったが、アンケートでの満足度は90%を超えた。 また、本展を通じて、これまで古美術にふれる機会の少なかった方々や、博物館に来たことのない方々にも、文化財の魅力を感じてもらえる機会となったことは、大きな意義を持つと評価できる。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aｸ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ク　特別展「最澄と天台宗のすべて」（10月12日～11月21日）
（目標来館者数6万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　皿井舞

【実績】

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」
会　　期	10月12日(火)～11月21日(日)(36日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、文化庁
作品件数	82件（うち、国宝17件、重要文化財46件）、復元展示2件
来館者数	63,977人(達成率107%)
入場料金	【前売日時指定券】 一般 2,100円、大学生 1,300円、高校生 900円 【当日券】 一般 2,200円、大学生 1,400円、高校生 1,000円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度90.7%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	本展は、「最澄と天台宗の始まり―祖師ゆかりの名宝」、「教えのつらなり―最澄の弟子たち」、「信仰の高まり―天台美術の精華」、「教学の深まり―天台思想が生んだ多様な文化」、「現代へのつながり―江戸時代の天台宗」、「全国への広まり―各地に伝わる天台の至宝」という構成で、天台宗の開宗から江戸時代に至るまでの日本天台宗の歴史を時系列に追った辿ったのち、各地に伝わる天台美術を展示して天台宗の広がりを紹介した。
学術的意義	本展では、延暦寺における日本天台宗の開宗から、東叡山寛永寺を創建して太平の世を支えた江戸時代に至るまでの天台宗の歴史を紹介した。日本各地で守り伝えられてきた貴重な宝物や、『法華経』の説く万民救済の精神を表す文化財を、地域的な特色を示しながら展覧した。秘仏をはじめ、天台の名宝が集う貴重な機会となった。
教育普及	実施なし
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：10月11日（月）182人出席。ポスター、チラシ制作、DMを実施。交通広告：東京メトロ電飾看板（コルトン）5駅6面、JR東日本窓上チャンネルなど出稿。雑誌：芸術新潮、サライほか。テレビ：NHK Eテレ「日曜美術館　アートシーン」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」ほか。10月26日、ニコニコ美術館による生中継を実施。ほか、当館ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNS等にて情報発信を実施した。また、展覧会場内で天台宗の僧侶らによる声明の無料ライブ配信コンサートを実施や、「月刊スピリッツ」（小学館）で連載したおかざき真里さん原作の歴史漫画『阿・吽』とコラボレーションによるイベント等を実施した。
補　足	会場画像　 会場画像

	3年度実績	目標値
来館者数	63,977人	60,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止策として、事前予約制を導入し、入場者制限も行わざるを得ない状況であったが、そのなかにあっても目標の来館者数を超えることができ、アンケートでの満足度においても 90%を超える高い評価を得ることができた。また、秘仏をはじめ、天台の名宝が集う大変高品質な展示を行うことができ、学術的にも意義の深いものとなった。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aケ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ケ　特別企画「手わざ―琉球王国の文化」（令和4年1月15日～3月6日）
（目標来館者数3万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	企画課特別展室主任研究員　三笠景子

【実績】

展覧会名	特別企画「手わざ―琉球王国の文化」
会　　期	4年1月15日(土)～3月6日(日)(44日間)
会　　場	東京国立博物館
主　　催	沖縄県立博物館・美術館、東京国立博物館
作品件数	50件
来館者数	27,440人(達成率91.5%)
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円　※総合文化展料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	アンケートなし

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	「手わざ」とは、作品を製作する手仕事の高度な技術を意味する。沖縄県立博物館・美術館が平成27年度より行ってきた、琉球王国文化遺産集積・再興事業では、明治以降の近代化や先の戦争で失われた文化財とその製作技術の復元に努めてきた。この事業で完成した作品は、絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線に至る8分野と多岐にわたり、携わった専門家、技術者は県内外100人以上にものぼる。本展では、琉球王国に伝わる卓越した技術でつくられた模造復元品を紹介した。
学術的意義	模造復元は、途絶えた製作技法の復元を行うため、学術的な意義がある。模造復元品は、可能な限り製作当時と同じ材料と技術を使って製作される。そのため、模造復元をする際には、手本となるオリジナルの作品、原資料について調査・研究を重ね、製作された当時の姿を忠実に復元し、新たに製作する。
教育普及	―
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター、チラシを制作、少部数のためDMは実施せず、館内での配架を中心に行った。交通広告：上野駅デジタルサイネージ。インターネットメディア：インターネットミュージアム、スフマート、和楽WEBなど。また、当館公式ウェブサイト、SNSにて情報発信を実施した。
補　足	会場画像（模造復元品　玉御冠） 会場風景

	3年度実績	目標値
来館者数	27,440人	30,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
本展の主催者である沖縄県立博物館・美術館では、27年度から3年度までの7年計画で、王国時代の手わざを現代に甦らせ、発信する琉球王国文化遺産集積・再興事業を起した。この事業は、明治以降の近代化や沖縄戦で消失した有形・無形の文化遺産に関して、絵画、彫刻（木彫、石彫）、工芸品（漆芸、陶芸、染織、金工、三線）の8分野65件のその製作技術を復元するもので、沖縄県の内外で巡回展を行うことを通じて、その成果品や新知見を発信する計画であった。本展において、失われた文化財の模造復元品を公開し、また模造復元を通して得られた最新の知見を紹介できた実績を踏まえ、Ｂ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aコ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
コ　特別展「ポンペイ」（仮称）（令和4年1月18日～3月13日）
（目標来館者数8万人）

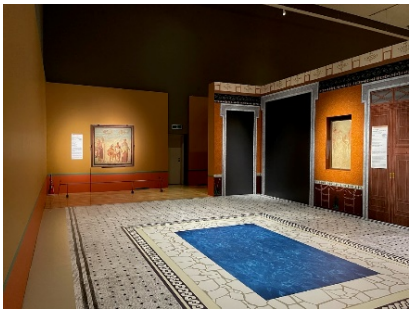
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員 小野塚拓造

【実績】

展覧会名	特別展「ポンペイ」
会　　期	4年1月18日(火)～4月3日(日)(70日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
作品件数	155件
来館者数	197,700人(達成率247.1%)
入場料金	一般　2,100円、大学生1,300円、高校生900円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度90.3%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	本展覧会は、ポンペイ遺跡の膨大な遺物を収蔵するナポリ国立考古学博物館が、その名品をかつてない規模で出品する「ポンペイ展の決定版」であり、床モザイク、壁画、彫像、工芸品の傑作から、豪華な食器、調理具といった日用品にいたる様々な発掘品を展示した。2000年前に繁栄した都市と市民の豊かな生活を体感できる、発掘資料の実物ならではの魅力がつまった展覧会となった。
学術的意義	古代ギリシャ・ローマ美術へのアプローチは、この20年間に変化している。すなわち、「作品」の技法や様式の変遷から文化史を論じる従来の研究に対し、モノと人／モノと社会との関係性を読み解く物質文化研究のアプローチが重視されるようになった。本展覧会は「名品」を中心に構成しつつも、こうした近年の研究動向を踏まえて形にしたポンペイ展であり、その面白さの一端を紹介できた点で重要である。
教育普及	小学校高学年・中学生向けの鑑賞の手引きとして、ジュニアガイドを作成したほか、考古学や壁画の保存修復の現場を小学生向けに紹介するレクチャーを3回実施した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	報道内覧会：1月13日(木)139媒体189出席。ポスター、チラシ制作、DM実施。交通広告： JRボード17駅20面、上野駅1面など出稿。雑誌：芸術新潮、美術展ぴあ、美術の窓など。テレビ： NHKBSプレミアム「古代ローマ・ポンペイ遺跡が日本にやってきた！」など。また、割引クーポン付きのステッカー、コースターなど上野商業施設や都内を中心に配布。ほか、当館公式ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNSにて情報発信。さらにはTwitter生中継による展覧会紹介を計3回実施した。
補　足	会場風景　  会場風景

	3年度実績	目標値
来館者数	197,700人	80,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｓ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う渡航制限により、イタリア側からのクーリエが来日できない状況ではあったが、お互いの信頼に基づき、事前の入念な打ち合わせやリモートによる連絡を取りながら、作品の輸送や展示を無事に完成することができた。ナポリ国立考古学博物館をはじめとする名品の数々を展示して、遺跡の再現空間を造作するなど、歴史的なポンペイ展となった。 密集を避けるため、展示作品を厳選し、会場の空間を広くとらなければならなかったが、その空間を遺跡の再現展示に用いるなど、来館者の満足度を高められるよう努めたことは、コロナ禍における展覧会の在り方として、大変意義のある試みであった。 展覧会は好評を博し、目標値を超える高い満足度を得ることができ、かつ、目標を大きく上回る来館者を迎えることができた実績を踏まえ、Ｓ評価とした。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aｻ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
サ　特別展「体感！日本の芸能」（令和4年1月7日（金）～3月13日（日）・表慶館）
（目標来館者数3万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課特別展室長　猪熊兼樹

【実績】

展覧会名	ユネスコ無形文化遺産特別展「体感！日本の芸能－歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界－」
会　　期	4年1月7日（金）～3月13日（日）（48日間）
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社
作品件数	141件
来館者数	15,405人(達成率51.4%)
入場料金	一般 1,500円、大学生 1,000円、高校生 600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度90.9%

告知ポスター

【成果】

企画構成展示作品	本展では、ユネスコ無形文化遺産一覧に登録された日本の伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊）を一堂に集め、それぞれの芸能が持つ固有の美とそれを支える「わざ」を紹介する。各展示室では、来館者が実際に舞台に上がり、伝統芸能ならではの舞台空間を臨場感たっぷりに体験できる再現舞台を設置するほか、実際の公演で使用されている衣裳、小道具、楽器等を展示する。
学術的意義	ユネスコ無形文化遺産に登録された5つの芸能を一度に「体感」できる史上初の企画である。本展では、来館者は伝統芸能の舞台・衣裳・小道具・楽器などを鑑賞するだけでなく、臨場感をもって体験できるという展示を試みた。また、プロの実演家や舞台を支える技術者による解説動画や、VR技術を活用したバーチャルミュージアムのインターネット公開を行った。
教育普及	―
その他（運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：1月6日(木)78人出席。ポスター、チラシ製作。交通広告：東京メトロ駅構内B1ポスター貼りなど出稿。雑誌：Discover Japan、美術の窓など。テレビ： TOKYO MX「週末ハッピーライフ！お江戸に恋して」など。当館公式ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNSにて情報発信。また、展覧会公式ウェブサイトでは、本展の予告となるオリジナル映像コンテンツの動画を公開した。
補　足	会場（歌舞伎）　 会場（雅楽）

	3年度実績	目標値
来館者数	15,405人	30,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 本企画は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに合わせて開催する予定であったが、コロナ禍のために中止し、3 年度に改めて開催した。当初、本展の見どころとして、舞台小道具を直接手に取ったり、インタラクティブ機能を使って舞台化粧をメーキャップできるコーナーを用意する予定であったが、このような接触を伴う展示は感染防止のために取りやめた。想定していた展示を十分に実施できなかった点もあるが、歌舞伎舞台を再現して登れるようにするなど、来館者が体感しながら観覧するための工夫を重ねた。また満足度アンケートでは、満足度 90.9%という評価を得ることができ、目標を達成できた。 今後は、本展における体感展示の反省と検討を生かし、時代に応じた体感展示を構築してゆく。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1221Bｱ

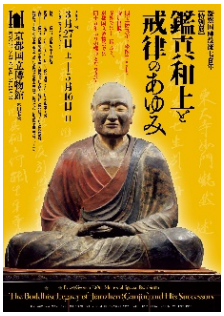
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　凝然国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」（3月27日～5月16日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績】

展覧会名	凝然国師没後700年　特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」
会　　期	3月27日(土)～5月16日(日)(44日間)　※4月25日(日)～5月11日(火)は臨時休館
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	京都国立博物館、律宗総本山 唐招提寺、日本経済新聞社、京都新聞、NHK京都放送局
作品件数	160件（うち国宝13件、重要文化財65件、重要美術品3件）
来館者数	18,797人（達成率：37.5%）
入場料金	一般 1,800円(1,600円)、大学生 1,200円(1,000円)、高校生 700円(500円)
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度73.4%



告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	古代から近代に至るまでの日本戒律史を通観する企画趣旨から、第1章「戒律のふるさと―南山大師道宣に至るみちすじ―」、第2章「鑑真和上来日―鑑真の生涯と唐招提寺の創建―」、第3章「日本における戒律思想の転換点―最澄と空海―」、第4章「日本における戒律運動の最盛期―鎌倉新仏教と社会運動―」、第5章「近世における律の復興」という構成にした。国宝「鑑真和上坐像」（奈良・唐招提寺蔵）を中心に、唐招提寺・東大寺・西大寺・泉涌寺といった戒律主要寺院の特別協力を得て、関連主要遺品をある程度網羅する内容となった。
学術的意義	戒律は僧侶・僧団のあり方を反映するため、インド・中国との受容方法の相異は仏教と日本社会の関係性を浮かび上がらせる。これは、日本の独自性を一程度明らかにする役割を果たす。本展では、古代から近代に至るまでの日本戒律史を通観することで、戒律運動の社会史的側面を明らかにすることを目指した。特に、仏教史学の近年の研究成果を反映させ、近世に視野を広げた点では画期的といえ、今日の研究段階を紹介し、主要視覚的遺品を網羅することで、今後の戒律研究の一里程標となったと自負している。
教育普及	・記念講演会（5回） 3月27日「鑑真和上の教え」西山 明彦 師（律宗管長、唐招提寺八十八世長老） 4月 3日「律とは何か」上杉 智英（当館 研究員） 4月10日「日本の戒律運動と日本人」大原 嘉豊（当館 保存修理指導室長） 4月17日「俊芿と宋代戒律の日本への影響」西谷 功 氏（泉涌寺宝物館「心照殿」学芸員） 5月15日「鑑真和上とゆかりのみ仏たち」淺湫 毅（当館 上席研究員） ・鑑賞ガイドを多言語（日・英・中・韓）で作成し配布した。 ・キャンパスメンバーズ会員校の学生及び教職員を対象に、本展覧会の見どころなどを解説する講演会を開催した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	・広報等：各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載された。虎ブログを2回掲載した。
補　足	

	3年度実績	目標値
来館者数	18,797人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
緊急事態宣言発出に伴う政府の要請による臨時休館措置等の事由により、来館者目標値を下回る結果となり、それに伴いアンケートの回答数が他の展覧会と比較しても半分以下となった影響を受けて、アンケート満足度でも目標値を下回る結果となってしまった。しかし、メディアには好感をもって多くの媒体で採り上げられ、社会的には一定の評価を得ることができ、コロナ禍の中、記念講演会を５回開催することもでき、参加者からは非常に好評であったことから教育普及の面からも大きな成果をあげることができたといえる。
とりわけ、学術的価値については、前例のないテーマでの大規模企画展ということで評価が高く、文化財保護と日本文化に対する国民の意識向上に大きく貢献できた。
以上の成果を踏まえると、来館者数の少なさ等を補う成果を挙げたと考えるため、Ｂと評価する。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bイ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「京の国宝ー守り伝える日本のたからー」（7月24日～9月12日）
（目標来館者数8万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室研究員　森道彦

【実績】

展覧会名	特別展「京（みやこ）の国宝―守り伝える日本のたから―」
会　　期	7月24日(土)～9月12日(日)(44日間)
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	文化庁、京都国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、読売新聞社
作品件数	120件（うち国宝72件、重要文化財8件、重要美術品1件）
来館者数	37,065人（達成率：46.3%）
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度88.5%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	2年度夏に文化庁主催のもと、京都市京セラ美術館において計画されていながら新型コロナウイルス蔓延のため中止となった同名の展覧会を、急遽当館で大幅に再構成し実施した展覧会。京都ゆかりの多数の国宝指定品及び文化財保護に関する様々な歴史資料を併せて展示し、文化財の持つ不滅の魅力とその保護のために欠かせない様々な営みについて紹介した。第1章「京都―文化財の都市」、第2章「京の国宝」、第3章「皇室の至宝」、第4章「今日の文化財保護」の4章に分け、多数の文化財を擁し、その保護が喫緊の課題であった京都という土地柄と我が国の文化財指定のあゆみにおける京都の働き、京都文化を今に伝える国宝指定品の数々、京都にゆかり深い皇室所蔵の文化財の名品及び皇室と文化財保護の関わり、今日の文化財保護において必要な調査研究、災害や防犯対策、保存修理や模造事業、について総合的に紹介した。展示品は「平家納経」（厳島神社蔵）や「三十帖冊子」（仁和寺蔵）をはじめとする国宝72件、重要文化財8件、重要美術品1件、総計120件。
学術的意義	京都ゆかりの国宝指定品を、分野ごとにある程度の通史性を確保しながら展観することで、日本の文化財の粋を実感できる展覧会となった。同時に、文化財に関する明治以来の研究や保護のあゆみを多くの新資料を紹介しながらひも解くことで、美術史研究の制度や科学技術の進展、修理や調査方法に関する様々な議論といった、文化財を取り巻く制度設計に関する総合的な問題意識を打ち出し、文化財史や近代史にとって意義深い展示となったと思われる。これらは文化庁と協働で実施するという展示スキームゆえに成し得たもので、従来知られていなかった文化庁所蔵資料の展観など、日本の文化財史にとって無二の展示とすることができた。総じて国宝の魅力を十二分に伝える優れた鑑賞体験を提供すると同時に、その背後にある様々な課題を提示すること、国宝とは何かという問いかけを行ったことで、来館者に通例のいわゆる「国宝展」とは異なる視座を提供できたと言える。ガラス乾板の展観など当館では従来にない展示を試み、初めて目にするが歴史のリアリティがよく伝わり面白かったという声が多く寄せられた。
教育普及	・記念講演会（6回） 7月24日「彫刻修理の歴史と現状」奥 健夫（文化庁文化財第一課 主任文化財調査官） 7月31日「国宝・重要文化財の指定―書跡・典籍、古文書を中心に―」藤田 励夫（文化庁文化財第一課 主任文化財調査官） 8月 7日「京の国宝―日本の文化財保護のあゆみと京都―」森 道彦（京都国立博物館 研究員） 8月21日「京の国宝―流転する工芸―」末兼 俊彦（京都国立博物館 主任研究員） 8月28日「京の国宝―絵画の美と評価の歴史―」井並 林太郎（京都国立博物館 研究員） 9月 4日「今日の文化財保存技術―装潢修理、特に紙を中心に―」地主 智彦（文化庁文化財第一課 文化財調査官） ・鑑賞ガイドを多言語（日・英・中・韓）で作成し配布した。 ・毎週金曜日、講堂で文化財修理に関する映像「伝統の技」、「伝統の紙」（日本語のみ）を終日上映した。 ・当館の館史などを紹介するウェブサイト「きょうはく物語」（日・英・中・韓）を作成し公開した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	・広報等：各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載された。虎ブログを3回掲載した。 備考：会期が新型コロナウイルス第5波の影響に伴う緊急事態宣言発令の期間にほぼ重なったため、実施にあたって関係者と綿密に協議を重ねた。感染防止対策を徹底するほか、2年度に引き続き観覧時間指定券の導入、Twitterによる館内状況の定期的な情報発信を実施した。またニコニコ動画を利用し、同サイト「ニコニコ美術館」において展覧会内容を会期中配信し、展示内容の紹介や、時勢柄来館できない方々への展覧会の魅力発信に努めた。
補　足	

	3年度実績	目標値
来館者数	37,065人	80,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 １年未満の準備期間で急遽実施が決まった展覧会ながら、従来のいわゆる国宝展とは一線を画した内容で、国宝に象徴される我が国の文化財の指定や保護制度そのものの歴史や意義を考えていくという、独自色の強い内容として仕上がった。来館者からの評価も高く、また図録は再び参照した際に出来る限り有用な資料となるよう、充実したものを作るよう努めたため、学術的成果は非常に大きい。新型コロナウイルス第５波とそれに伴う緊急事態宣言の影響により、来館者数は目標値を下回る結果となったが、アンケート満足度では88.5%と目標値を達成することができ、「通例の国宝展より意義がありよかった」とのコメントも寄せられた。この他、学術的意義と、国内外の研究者からの評価を勘案するとＡ評価が妥当であると考えられる。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1221Bウ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別展「畠山記念館の名品－能楽から茶の湯、そして琳派－」（10月9日～12月5日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男

【実績】

展覧会名	特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」
会　　期	10月9日(土)～12月5日(日)(50日間)
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	京都国立博物館、公益財団法人荏原畠山記念文化財団 畠山記念館、 日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿
作品件数	228件（うち国宝6件、重要文化財31件、重要美術品7件）
来館者数	39,782人（達成率：79.5%）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度76.1%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	荏原製作所の創業者である畠山一清によって設立された畠山記念館のコレクションを公開する展覧会である。畠山記念館は茶道具を中心とする日本、中国、朝鮮の古美術品で、国宝６件、重要文化財 33 件、重要美術品７件を含む約 1,300 件にも及ぶコレクションがあり、次のようなテーマ構成を企画した。 第1章「蒐集の始まりと金沢」、第2章「能楽－美意識の支柱」、第3章「名品との出会い」、第4章「琳派」、第5章「興衆愛玩の想い」、第6章「畠山即翁と茶の湯」の6章で構成した。能楽、茶の湯を楽しんだ設立者・畠山一清の審美眼と美意識に触れられるように、茶事や演能の場面を追体験できるような造作等を行い、作品の紹介を行った。
学術的意義	これまで畠山記念館を含め、200件をこえる同館の所蔵品が一堂に展示されたことはなく、また関西の地で展示が行われたのも初めてであり、茶の湯や能楽をはじめとした諸分野の質の高い作品を数多く展示公開できたことはそのコレクションの意義や重要性を考える上でも極めて貴重な機会となった。 能楽や茶の湯、琳派作品など、各分野において作品調査を行い、その成果を図録に反映し、畠山記念館の学芸員と共業で作業することにより、それぞれの分野での新知見を得ることができた。
教育普及	・記念講演会（4回） 下記の通り実施を行い、各回100名ほどが参加した。 10月9日「共に楽しむ茶の美術館―畠山コレクション誕生の背景とその魅力―」水田 至摩子（畠山記念館学芸課長） 10月23日「近代の紳士能と大名家旧蔵能装束―加賀藩前田家伝来品をめぐって―」山川 曉（当館 工芸室長／企画室長） 11月6日「近代数寄者の琳派作品収集と畠山即翁」福士 雄也（当館 主任研究員） 11月20日「興衆愛玩―即翁蒐集の名物道具と数寄者との交友―」降矢 哲男（当館 主任研究員） ・鑑賞ガイドを多言語（日・英・中・韓）で作成し配布した。 ・キャンパスメンバーズ会員校の学生及び教職員を対象に、本展覧会の見どころなどを解説する講演会を開催した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	展覧会会期中は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努める必要もあり、展覧会共催者ともその運営や広報などについて協議を重ねた。その結果として、予約優先制の入場券を導入し、一部当日券を販売する形式をとることとなった。広報等については、各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載され、虎ブログについては4回の掲載を行った。
補　足	

	3年度実績	目標値
来館者数	39,782人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
アンケート満足度は目標値に達することができなかったが、新型コロナウイルスによる影響が大きいなか、感染症対策に努めることで来館者に安全を配慮した形での展覧会を開催することができた。事前に作品調査を行い、新知見を含む内容をそれぞれの作品担当研究員によって図録に反映できたことは学術的にも大変意義深く、成果としても大きなものであった。
広報についても積極的に展開していき、各種新聞・雑誌で展覧会の紹介記事が掲載され、教育普及の面においても記念講演会４回いずれも 100 名ほどが参加され好評を博した。
以上の理由から、Ｂ評価が妥当であると考えられる。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　1221Cア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」（4月27日～6月20日）
（目標来館者数10万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室主任研究員　山口隆介

【実績】

展覧会名	聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」
会　　期	4月27日(火)～6月20日(日)(49日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、法隆寺、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿、文化庁
作品件数	174件（うち国宝36件、重要文化財75件）
来館者数	44,233人（達成率：44%）
入場料金	一般2,000円(1,800円)、高校・大学生1,400円(1,200円)、小・中学生500円(300円)　※( )は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度 95.0%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	法隆寺において護り伝えられてきた寺宝を中心に、太子の肖像や遺品と伝わる宝物、また飛鳥時代以来の貴重な文化財を通じて、太子その人と太子信仰の世界を広く紹介した。展示の構成をジャンル別とせずに、仏教伝来から聖徳太子の活躍、没後の信仰の広がりを全5章に落とし込むことで、歴史の流れを体感できるように工夫した。 金堂東の間の本尊薬師如来像や四天王像（2軀）、聖霊院秘仏本尊聖徳太子及び侍者像、五重塔塔本塑像など法隆寺を代表する仏像を中心に展示を構成し、また明治11年（1878）に法隆寺から皇室へと献納され、現在東京国立博物館が所蔵する法隆寺献納宝物が、まとまって奈良へ里帰りする貴重な機会ともなった。
学術的意義	質、量ともに100年に一度の遠忌にふさわしい内容が実現し、金堂東の間の本尊薬師如来像をはじめ寺外での公開がほとんどなかった作品の出陳が叶うなど、かつてない規模の充実した法隆寺展となった。 また、金堂の諸像や夢殿本尊救世観音像、五重塔塔本塑像など、展覧会の事前調査で詳しい観察や高精細デジタルカメラによる写真撮影、X線CTスキャン調査を実施することができた。調査で得られた知見は展覧会図録に盛り込むとともに、展示会場のパネルや題箋にも反映させ、最新の成果を広く内外に発信することができた。
教育普及	展覧会図録（日英）、題箋（日英中韓）、パネル（日英中韓）、音声ガイド（日）を作成した。 記念講演会を1回（東野治之氏「聖徳太子－史実から信仰へ」[5月1日]）、公開講座を2回（三本周作「法隆寺と古代仏教の世界―工芸品から探る」[5月22日]、山口隆介「法隆寺の仏像と聖徳太子信仰」[6月19日]）実施し、各回約80名が参加した。 法隆寺の歴史と聖徳太子の生涯を平易な解説と親しみやすいイラストで紹介したジュニアガイドを作成した（構成・イラスト:当館教育室アソシエイトフェロー翁みほり）。 関連イベントとして、「聖徳太子ジャンボすごろく」を2回、「なら仏像けんきゅー部と学ぶおもしろ歴史講座」を1回開催した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター・チラシ、交通広告をはじめ、新聞、テレビ、雑誌、ウェブサイト、SNSなど幅広い媒体で展覧会情報を発信した。また、巡回先である東京国立博物館と合同で報道発表を行った。運営面では新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のため、事前予約優先制を導入した。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	44,233人	100,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 聖徳太子の 100 年に一度の遠忌という特別な機会にふさわしい内容の法隆寺展を開催することができた。コロナ禍で様々な制約があり、来館者数は目標値に達しなかったが、来館者アンケート満足度では95%という非常に高い数値となった。また、徹底した感染対策を講じることで安心して観覧することのできる環境を整えることもできた。東京国立博物館との連携のもと多角的な調査研究を実施することで、最新の成果を広く内外に提示できた点も大変有益であった。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cｲ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション」（7月17日～9月12日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績】

展覧会名	特別展「奈良博三昧－至高の仏教美術コレクション－」
会　　期	7月17日(火)～9月12日(日)(51日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
作品件数	246件（うち国宝13件、重要文化財100件）
来館者数	34,659人（達成率：69%）
入場料金	一般1,500円(1,300円)、高校・大学生1,000円(800円)、 小・中学生500円(300円)　※()は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度96.8%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	奈良国立博物館の館蔵品の中から選りすぐった彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の優品 246 件によって、日本仏教美術 1,400 年の歴史をたどる展覧会。全 10 章で構成され、第 1 章から第 9 章までは、日本仏教黎明期の古代寺院の遺宝、密教や浄土教が生み出した仏像・仏画・仏教工芸、神とほとけが織りなす神仏習合の造形、高僧の肖像や書などのテーマに基づいて、古代から近世に至る日本仏教美術の流れを概観。第 10 章では時代やジャンルも広範囲に及ぶ奈良博コレクションの魅力を紹介した。展示を部門別に分けるのではなく、仏教美術の歴史の流れに沿うようにジャンルの垣根を取り払って各作品を配置した。更に各章のテーマの中で作品相互の有機的な関係が観覧者に対して視覚的に分かりやすく伝わるよう、展示台・壁紙・題箋・パネル・バナー等の配色を各章ごとに統一する工夫を凝らした。
学術的意義	東大寺戒壇院扉絵図等の新収蔵品について調査研究に基づく基礎データを収集、厨子入り両界曼荼羅など館蔵品を代表する重要作品について事前にX線CTスキャン調査を実施し、新知見を展示パネルや図録上で公表した。また全作品の基礎情報、作品解説を英語、中国語、韓国語に翻訳し、展示パネル、題箋、図録に反映した。さらに彫刻、絵画、書跡、工芸、考古各部門の館蔵品収蔵過程について館内に保管される文書資料の調査を実施し、その成果を図録の各論に反映した。
教育普及	会期中に実施した合計6回の公開講座について、感染症対策として聴講人数を90名以下に制限する中、全ての動画及び配付資料を館公式YouTubeチャンネル上に公開し、広く聴講の機会を設けた。 平易な言葉とイラストを活用したジュニアガイドを会場入り口で配付、親子向けの題箋及びパネルを会場内に設置するなど、仏教美術を初めて鑑賞する広い客層に親しんでもらえるよう工夫した。 奈良教育大学との連携事業として、出陳品のイメージを活用した親子ワークショップ「奈良博ざんまい わいわい紙ずもう」の動画を公式YouTubeチャンネル上に公開した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	アメコミ風を斬新なデザインのメインイメージをポスター、チラシ、デジタルサイネージ等の広報への展開、オンライン生中継動画「ニコニコ美術館」への当館研究員6名の出演、吉本興業所属若手芸人によるイベント「仏像けんきゅー部 奈良博三昧編」の開催等を通じて、若い客層への宣伝波及に努めた。 本展の開幕に合わせてデビューを公表した奈良博公式キャラクター「ざんまいず」のイラストをポスターやチラシ等の広報、ジュニアガイド、親子向け題箋パネル、LINEスタンプ、グッズなどに展開した。 公式キャラクター「ざんまいず」を音声ガイドにも登場させ、その声を担当する有名声優にSNS上で展覧会を紹介してもらうことで、かつてないほど若い客層が多く会場に足を運ぶ結果につながった。 全展示作品の会場内での写真撮影を可能とした結果、作品に深く親しむことができたという好評の声が多く寄せられ、展示品の写真がSNS上で紹介されることで大きな宣伝効果を得ることができた。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	34,659人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 館蔵品のみで日本仏教美術の歴史を概観するという重厚な内容だったが、公式キャラクターを活用したジュニアガイド・題箋パネル・音声ガイドの展開、全作品撮影可とする等の取り組みを通じて広い客層から非常に高い満足度を得た。会期中にコロナ禍が全国的に深刻となる中、来館者数は目標値に達しなかったものの、徹底した感染対策とオンラインを活用したサービス提供により、安全な形で広く展覧会に親しんでもらう環境を整えることができた。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　1221Cｳ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別展「第73回 正倉院展」（予定）（10月～11月）
（目標来館者数6万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	工芸考古室研究員　三本周作

【実績】

展覧会名	特別展「第73回 正倉院展」
会　　期	10月30日(土)～11月15日(月)(17日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
作品件数	55件
来館者数	73,968人（達成率：123%）
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度92.0%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	正倉院宝物約9,000件の中から55件が出陳された。3年度も、楽器・調度品・仏具・染織品・文書など、正倉院宝物の全体像がうかがえる構成となったが、二十数年ぶりの出陳となる正倉院の代表的な楽器や、まとまった点数の筆など、展示の目玉となる宝物も多数出陳された。 正倉院宝物の内容をわかりやすくたどれるようテーマ別に宝物を展示し、作品解説のみならず、研究成果を紹介するパネルも充実させて、見て楽しい、学ぶ場としての会場づくりを意識した。
学術的意義	近年、宮内庁正倉院事務所で実施された宝物調査の成果（①正倉院の筆の素材・構造に関する研究、②従来知られていなかった染色技法に関する研究）が発表され、これに関わる宝物が出陳された。会場ではこれらの成果について要点をまとめたパネルを掲示し、広く来館者の方に触れていただく機会となった。 特に、筆に関する成果は、筆の素材・構造と筆跡との関係にまで及んだもので、会場でも筆と書跡・文書を対照させて鑑賞するという新しい視点が開かれた。 また、上記の内容は展覧会図録にも作品解説及び宝物寸描（論考）として掲載した。
教育普及	新型コロナウイルスの影響下で来館者数の制限を行ったため、インターネットで動画配信を実施した。動画は宝物の魅力を工芸作家や研究員のコメントとともに紹介したテレビ局製作のもの、及び研究員による宝物解説を主とした館独自製作のものを配信した。 また、講座は予約制とし、会期中に3回実施した。 例年実施しているボランティアによる講堂での解説は実施できなかったが、音声ガイドでは正倉院展としては初めて研究員自身による解説を導入し、宝物の詳しい解説に触れていただくことができた。音声ガイドの貸出率は25.7%であった。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	正倉院展は、平常時であれば会期17日間で20万人以上が来館するため、新型コロナウイルスの蔓延防止の観点から入場制限を実施した。前売り日時指定制とし、2年度よりも来場者数を増やして1時間あたりの人数を500人と定めた。予約はインターネットと電話で受け付けた。ポスター、チラシ、主要駅でのデジタルサイネージなどで入念な広報を行ったため、運営上大きなトラブルは生じなかった。 入場時には来館者の行列ができたものの、入場を開始するとスムーズに流れ、大きな混乱は起きなかった。2年度より入場者数を増やしたが、作品を鑑賞しやすい環境は維持でき、概ね好評であった。入場料金については、平常時と比べ、高額であったが、鑑賞のしやすさから適切との評価が大勢であった。 また、特別協力の読売新聞社が3年に立ち上げた正倉院展特設ホームページにおいて図録やグッズを購入できるようにするなど、より広範な広報の展開とともに、サービスの充実が図られた。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	73,968人	60,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 感染拡大防止が大きな課題となる中、入館方法、広報、展示などについて関係者間で入念に検討し、適切な形で開催することができた。来場者数に関しては、2 年度の実績や昨今の感染状況などを踏まえて設定した結果、安全も確保しつつ所期の目標値を大幅に上回る数値を達成することができた。来館者には作品とゆっくり触れ合っていただく場を提供でき、アンケートでも高い評価をいただいた。ただ、車椅子を使用される方には展示位置が少し高かったと考えられ、是正が必要であることを痛感した。誰にでも見やすい展示を工夫することが今後の課題である。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　1221Cｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
エ　特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」（4年2月5日～3月27日）
（目標来館者数4万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長　岩井共二

【実績】

展覧会名	特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」
会　　期	令和4年2月5日(土)～3月27日(日)(47日間)
会　　場	奈良国立博物館　東新館
主　　催	奈良国立博物館、読売新聞社、文化庁、日本芸術文化振興会
作品件数	31件(うち国宝4件、重要文化財1件)
来館者数	34,385人（達成率：85.9%）
入場料金	一般1,400円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度95.3%

告知チラシ

【成果】

企画構成展示作品	奈良時代彫刻の名作で日本を代表する仏像のひとつである国宝 十一面観音菩薩立像（奈良・聖林寺）は、かつて、国宝・地蔵菩薩立像（奈良・法隆寺）などとともに奈良・大神神社の神宮寺である大御輪寺に伝わったことが知られる。本展では、大御輪寺にあった仏像や大神神社の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品なども展示し、仏教と、日本古来の自然信仰が融合した三輪山信仰の有様も紹介した。
学術的意義	本展では、24年ぶりに寺外での公開となる聖林寺十一面観音菩薩立像を中心に、かつて大神神社の神宮寺であった大御輪寺の仏像が、明治初年の神仏分離以来150年一堂に会したことは近代以前の宗教観を再現するという点において意義のあるものであった。さらに、国宝の仏像を普段、寺院内では不可能な360度から鑑賞可能な展示で公開することは、鑑賞者の仏像の理解を深めることとなり、また多方向からの観察ができるということは日本の奈良時代彫刻史研究においても進展に大いに寄与するものであった。
教育普及	公開講座を開催し、64名が参加した。(4年3月5日（土)「聖林寺十一面観音菩薩立像をめぐって」岩井共二) 2月11日夜間特別鑑賞会は研究員レクチャー付きとし、特別感を演出するイベントとして実施。(参加者66名)。また、3月12日にはよしもとエリアアクションとコラボした奈良仏像けんきゅー部を実施（参加者73名)、3月13日「ニコニコ美術館「特別展『国宝　十一面観音菩薩』を巡ろう」を放送し、22,311名の視聴者を得た。
その他(運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスターやチラシ、交通広告を始め新聞やテレビ、SNSなど幅広い広報媒体にて情報発信を展開した。プレスリリースは東京国立博物館と合同で実施した。展覧会会期中は聖林寺と当館の２カ所のスタンプラリーや住職も出演いただいた奈良仏像けんきゅー部のワークショップなど寺院と連携した関連イベントも充実させた。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	34,385人	40,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症の影響により、2年度の開催が延期となったが、出陳者の理解を得て、3年度に開催することができた。会期中、大都市圏で蔓延防止措置が出されたこともあり、来館者数は伸びなかったが、展示件数が少ないにも関わらず、来館者からは高い満足度を得られ、所期の計画以上の結果となった。聖林寺十一面観音をはじめ、仏像の多くをケースなしで 360 度から鑑賞できる展示を実現し、照明や展示台の高さ、レイアウトにも配慮した展示が大きく評価された結果と考えられる。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cオ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
エ　「名画の殿堂　藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」（3年12月10日～4年1月23日）
（目標来館者数1.8万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績】

展覧会名	「名画の殿堂　藤田美術館展－傳三郎のまなざし－」
会　　期	令和3年12月10日(金)～令和4年1月23日(日)(35日間)
会　　場	奈良国立博物館　西新館
主　　催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿
作品件数	74件(うち国宝2件、重要文化財5件)
来館者数	13,773人（達成率：76.5%）
入場料金	一般1,200円、高校・大学生1,000円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度87.5%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	31年度春に開催した特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」の続編として、藤田美術館の所蔵品の中から、コレクションの礎を築いた藤田傳三郎の美意識によって選び抜かれた絵画作品を中心に構成。藤田美術館と奈良国立博物館が共同で近年行った同館所蔵絵画作品の悉皆調査で見出された作品を多く展示するもので、全74件の展示作品中、初公開作品は23件（24点)、藤田美術館外での公開が初めてとなる作品も19件を数える。国宝・重要文化財に指定されるコレクションを代表する作品も併せて展示し、平安時代から近代に至る日本絵画史の流れを全7章によって概観する。
学術的意義	藤田美術館と奈良国立博物館の共同研究として31年度春より2年半にわたって実施した藤田美術館所蔵絵画作品悉皆調査の成果に基づき、合計23件の未公開作品を初紹介し、調査で得られた基礎データ及び所見を図版とともに図録上で公表した。本調査には当初より当館客員研究員板倉聖哲氏（東京大学教授)、当館調査員中野慎之氏（文化庁調査官）の参加を要請し、図録・題箋の執筆についても中国絵画・日本中世水墨画分野を板倉氏、近代絵画を中野氏が担当することで、成果の学術的価値を高めることができた。また東京文化財研究所の協力により最新機器による高精細デジタル画像撮影を実施し、高解像度の図版を図録に多数掲載することで、初公開となる重要作品の細部を詳細に観察できる学術的価値の高い内容とすることができた。
教育普及	12月11日（土）午後1時30分～3時に公開講座「藤田家伝来の唐絵―中国絵画と中世日本水墨画」(講師：板倉聖哲氏［東京大学東洋文化研究所教授］）を開催。藤田美術館所蔵絵画作品悉皆調査の成果に基づきながら、中国絵画及び日本中世水墨画の魅力をわかりやすく解説した。聴講無料、募集定員90名（事前申込先着順)、当日参加者59名。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	ポスター・チラシ、交通広告、新聞、テレビ、雑誌、ウェブサイト、SNSなど多くの媒体で展覧会情報を発信した。またオンライン生中継動画「ニコニコ美術館」(12月10日放映）で本展覧会を紹介し、広い客層への周知に努めた。更に新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のため、観覧者の入館時における検温、マスク着用及び手指のアルコール消毒の徹底、展示室内でのソーシャルディスタンス確保等の要請を行った。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	13,773人	18,000人

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
日本を代表するコレクションを誇る藤田美術館の絵画作品を中心に取り上げ、藤田美術館と奈良国立博物館の共同による悉皆調査で発見された作品を中心に構成された、極めて学術的価値の高い展覧会を開催することができた。更にこれまでに当館で展示する機会の少なかった中国絵画、水墨画、近世・近代絵画を広く紹介することで、新しい客層に当館を認知してもらう貴重な機会になった。なおコロナ禍の制約により来館者数の目標値は達成しなかったものの、徹底した感染対策を講じることで安心して観覧できる環境を提供した結果、87.5%の満足度を得ることができた。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　1221D ア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」（4月20日～6月13日）
（目標来館者数3万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室長　川畑憲子

【実績】

展覧会名	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」
会　　期	4月20日(火)～6月13日(日)（49日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	宮内庁正倉院事務所、九州国立博物館・福岡県、朝日新聞社、西日本新聞社、NHK福岡放送局
作品件数	86件（うち国宝0件、重要文化財0件）
来館者数	18,157人（達成率：60.5%）
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,000円、小・中学生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　88.7%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	これまでに製作された数百点に及ぶ再現模造作品のなかから、選りすぐりの逸品を、陛下の御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、公開した。 　作品の分野別に模造品を展示しただけでなく、模造の過程や、製作途中の部品なども追加して模造資料として展示した。また、当館では作品を追加して展示することで、模造の背景を掘り下げた。
学術的意義	正倉院宝物の模造事業では、重要無形文化財保持者らによる伝統技術の熟練の技と最新の科学的調査・研究成果の融合により、見た目だけでなく、内部まで忠実に再現されたものである。本展ではこうした模造の歴史やその意義を展示を通じて紹介した。
教育普及	模造事業に従事した技術者に光を当て、技術者たちのインタビュー映像や、模造に用いた道具を展示するコーナーを設けた。来館者からは、「インタビューが印象に残った」「もっと製作者の声が聞きたくなった」と好評をいただいた。 　また、担当研究員によるリレー講座（2回、うち1回は動画配信に切り替え）を実施した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	多言語による音声ガイドを提供した。実機によるサービス提供に加えて、スマートフォン用のアプリによる音声ガイドも提供した。 　展覧会を紹介する動画をウェブサイトで公開したほか、リレー講座の模様を動画で公開した。
補　足	展示会場

	年度実績	目標値
来館者数	18,157人	30,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 　正倉院を代表する再現模造作品を展示し、文化財の模造事業の重要性について一定の周知を図ることができた。しかし、新型コロナウイルスの流行が続く状況の中、広報やイベントなどの制約が大きく、目標の来館者数には及ばなかった。ただし、本展の満足度調査では来館者から高い満足度を得ており、Ｂ評定とする。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　1221Dｲ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―」（7月20日～8月29日）
（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	学芸部文化財課長　原田あゆみ

【実績】

展覧会名	特別展「皇室の名宝―皇室と九州をむすぶ美―」
会　　期	7月20日(火)～8月29日(日)（35日間） ※8月14日～15日は大雨の影響により、臨時休館
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、宮内庁、西日本新聞社、TVQ九州放送 日本経済新聞社
作品件数	68件（うち国宝4件、重要文化財0件）
来館者数	43,197人（達成率：86.4%）
入場料金	一般2,000円（1,800円）、高校・大学生1,200円（1,000円）、 小・中学生800円（600円）※（）は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　91.7%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	宮内庁三の丸尚蔵館が収蔵する名宝を展覧した。本展では、元寇襲来の事績を描いた「蒙古襲来絵詞」をはじめ、近代国家としての日本の歩みを支えた、九州出身の偉人ゆかりの書画、天皇御即位や御成婚をはじめとする御慶事に際して九州各地から献上された品々をとおして、皇室と九州の深いつながりを紹介した。
学術的意義	九州の地で皇室コレクションを本格的に紹介する初めての展覧会となった。展覧会を構成するにあたって、皇室と九州のつながりに焦点を当て、これまでにない内容とすることができた。また、宮内庁三の丸尚蔵館の協力を得て、対馬伝来の仏像についての科学調査を行い、作品研究を深めた。
教育普及	館内において、以下の講演会を実施した。記念対談「やきもの王国・九州と近代の皇室」（沈壽官氏・岡本隆志氏、7月24日）、記念講演会「美を伝えゆく―「春日権現験記絵」と「動植綵絵」の修理を通して―」（太田彩氏、8月8日）、館員によるリレー講座（8月1日）①「九州と帝室技芸員」（望月規史）、②「皇室と九州・沖縄をむすぶ美」（原田あゆみ）、そのほか、近隣地域に出向いて展覧会を紹介する講演会を行った。また、夏休みの子供向けイベントとして、さかなクンの特別講演会（7月25日）を設け、関係する展示作品に幅広く関心をもってもらう工夫を行った。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	九州で皇室コレクションをまとまった形で紹介する初めての展覧会であり、動植綵絵や蒙古襲来絵詞など、宮内庁三の丸尚蔵館の名だたる名品が揃う貴重な機会となった。ポスター・チラシ、交通広告、新聞、テレビCMでは、明快なタイトルとともに、九州に関係する作品と宮内庁三の丸尚蔵館の名品の魅力をわかりやすく紹介するよう努めた。 展示レイアウトは来館者混雑を避けるため導線を単純にし、特に混雑が予想される作品の周辺は空間にゆとりを設けた。また、動植綵絵をはじめとする名画鑑賞のために開発された照明器具を採用するなど、質の高い展示を目指した。
補　足	

	年度実績	目標値
来館者数	43,197人	50,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新たに指定された国宝４件を紹介すると共に、九州初公開の名品も多く、御物・聖徳太子二王子像、御物・法華義疏、を特別に公開する機会を得て、展覧会への関心は高かったといえる。 新型コロナウイルス禍にある中での展覧会のため、展示室全体が密にならないよう展示レイアウトを検討し、展示室内での会話や滞留する来館者に注意を促した。その際、鑑賞者のストレスにならないよう、注意喚起はパネル掲示にて行うなど工夫した。これらは、来館者から概ね好評であり、高い満足度につながった。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 1221Dｳ

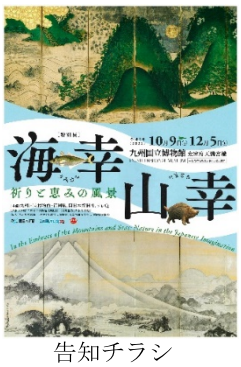
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景」（10月9日～12月5日）
（目標来館者数4万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	学芸部文化財課資料登録室長　森實久美子

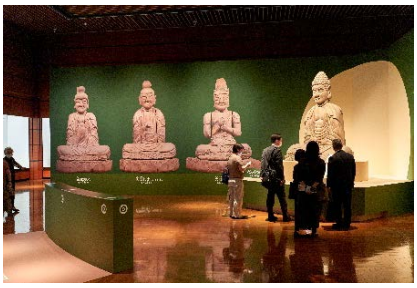
【実績】

展覧会名	特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景」
会　　期	10月9日(土)～12月5日(日)（50日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送
作品件数	96件（うち国宝11件、重要文化財24件）
来館者数	17,383人（達成率：43.4%）
入場料金	一般1,600円（1,400円）、高校・大学生1,000円（800円）、 小・中学生600円（400円）※（）は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　83.9%



告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	日本人と自然との関わりをテーマとする展覧会。展覧会冒頭では、海幸彦・山幸彦の兄弟にまつわる神話を読み解きながら古来育まれてきた日本人の自然観を紹介した。続いて「海幸」「山幸」の2部構成として、海と山にまつわるそれぞれ4つのテーマを設けて絵画、彫刻、書跡、考古など多岐にわたる全96件を展示した。教科書でもよく知られた国宝「銅鐸（桜ヶ丘町出土）」（兵庫・神戸市立博物館）や国宝「平家納経」（広島・厳島神社）、近年国宝となった大阪・金剛寺「日月山水図屏風」、九州では初めての公開となる山元春挙筆「昭和度主基地方風俗歌屏風」（東京・宮内庁三の丸尚蔵館）、木喰上人の最大作品「阿弥陀如来坐像（五智如来のうち）」（宮崎・西都市）など、多彩な作品を紹介した。  展示風景 阿弥陀如来坐像（宮崎・西都市）
学術的意義	日本人と自然という壮大なテーマを様々な切り口によって捉える展覧会。古来、日本人がいかに深く自然と関わりその恩恵を受けてきたのか、日本人独特の感性が生み出した豊かな造形によって、その在り方を視覚的に示した。展覧会初出陳の作品も含む多くの優品を展示した。
教育普及	館内ホールにおいて、特別講演会（1回）及びリレー講座（2回）を実施した。詳細は次のとおり。「海山への祈り―九州の祭りの風景―」（10月9日、森弘子氏）、きゅーはくオータムスクール（第1回〈10月30日〉：森實久美子、今井涼子、大澤信、第2回〈11月13日〉：松浦晃祐、樋笠逸人、望月規史） そのほか、近隣地域に出向いて展覧会を紹介する講演会を行った。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	会期中には上記講演会を行ったほか、ウェブサイト上での動画公開やテレビ（NHK「日曜美術館アートシーン」など）やラジオでの紹介によって展覧会の普及に努めた。広報の一環として、JR九州とタイアップして観光列車「海幸山幸号」の特別運行を行い、併せて乗客への講演会を実施した。
補　足	会期について、当初は2年7月21日～9月13日で開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大によっておよそ15か月延期となった。

	年度実績	目標値
来館者数	17,383人	40,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、感染防止対策に努めたものの来館者数は目標には及ばなかった。しかし、「日本人と自然」というテーマは、「SDGs」の趣旨とも合致し、近年関心の高まりつつある日本の自然をテーマとした初めてとなる大規模な展覧会を開催することができた。近隣地域に出向いて講演会を行うなど、展覧会の普及に努め、より理解を深めるための様々な取り組みを実施したことで、来館者の満足度を高めることができた。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 1221Dｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
エ　特別展「最澄と天台宗のすべて」（4年2月8日～3月21日）
（目標来館者数4万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室研究員　大澤信

【実績】

展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」
会　　期	4年2月8日(火)～3月21日(日)（37日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、西日本新聞社、文化庁
作品件数	114件（うち国宝23件、重要文化財69件）
来館者数	29,518人（達成率：74.8%）
入場料金	一般1,900円（1,700円）、高校・大学生1,200円（1,000円）、小・中学生800円（600円）※（）は前売料金
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度 92.6%

告知チラシ

【成果】

企画構成展示作品	平安時代初期に天台宗を開き、その教えを全国に広めた伝教大師最澄の没後1200年を記念して、最澄と天台宗の歩みを、比叡山延暦寺や九州はじめ西日本を中心とした天台ゆかりの寺社に伝わる宝物によって紹介した。現存最古の最澄の肖像彫刻と伝わる「伝教大師（最澄）坐像」（滋賀・観音寺）、入唐求法の旅から帰国して天台教学を発展させた円仁ゆかりの「聖観音菩薩立像」（滋賀・延暦寺）、さらに天台密教と山岳信仰が融合して生み出された九州独自の尊像「太郎天及び二童子立像」（大分・長安寺）などを展示した。また、特設コーナーを設け、織田信長による比叡山焼き討ちを経て見事に復興を遂げた延暦寺根本中堂の再現展示を行った。
学術的意義	天台宗の展覧会が九州で開催されるのは36年ぶりで、この間、「菩薩遊戯坐像（伝如意輪観音）」（愛媛・等妙寺）や「性空上人坐像」（兵庫・圓教寺）など全国各地の天台宗寺院で新たな文化財が発見、報告されている。本展ではその研究成果を発表するとともにいくつかの作品ではX線CTスキャンなど最先端の機器を用いた像内納入品などの調査を行い、そのデータをもとに3Dプリンタでレプリカを製作、展示した。
教育普及	天台宗の歴史や文化に対する理解を促進するため、写真や図を多用した解説パネルを掲出した。また、比叡山とその荒行である千日回峰行について、イラストを交えながら親しみやすく紹介する教育普及コーナーを設けた。さらに、最澄が乗った遣唐使船の模型（約20分の1）も復元、展示した。 作品キャプションは、障がい者が認識しやすい字体を用い、バリアフリー対応にも力を入れた。
その他（運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	ポスター・チラシ、テレビCMはもちろんのこと、若い世代を対象としたSNSによる広報にも力を入れた。SNSでは、出展作品に親しみやすいキャッチフレーズを添えて紹介するなど、理解を深めるための工夫を凝らした。インターネット配信による展示解説も行った。
補　足	 展示会場

	年度実績	目標値
来館者数	29,518人	40,000人

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 日本の仏教のみならず、美術や社会・文化に大きな影響を与えた天台宗を通史的に紹介するのみならず、西日本に伝わる宝物や山岳信仰に焦点を合わせ、また、千日回峰行に関する詳しい解説を教育普及コーナーとして独自に展開するなど、新たな試みにも意欲的に取り組んだ。その結果、来館者からの高い満足度にも繋がり、Ｂ評価が妥当と考えられる。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1231A

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)(4館共通)ア、イ(東京国立博物館)ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク

担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　城山美香 特別展室長　猪熊兼樹 デザイン室長　矢野賀一 国際交流室長　楊鋭 教育普及室長　藤田千織 室長　鬼頭智美 平常展調整室長　皿井舞

【実績・成果】
(4館共通)
ア　平常展の題箋及び解説等について、4言語(日、英、中、韓)にて情報提供を行った。
イ　すべての来館者にとって快適な展示環境となるよう、題箋や解説パネルにユニバーサルデザインのフォントを導入した。また、バリアフリー化の一環として、平成館2階男子トイレ小便器更新工事を行った。
(東京国立博物館)
ア　日本文化や歴史への理解促進を図るため、本館4室と9室にデジタルサイネージを引き続き設置し、展示作品の使用例や文化的背景を補足する映像を引き続き上映した。
　また、本館13室の誘導サイン、本館14室コーナー解説・グラフィックパネルについてデジタルサイネージを導入し、鑑賞環境の向上を図った。なお、誘導サインとデジタルサイネージでは、4言語にて展示の見どころなどの情報を発信した。
イ　本館特別1・2室改修工事の工事発注に向け設計及び積算を行った。また、展示ケース、照明、グラフィックデザインを立案した。
ウ、キ　日英中韓の4言語に対応した鑑賞ガイドアプリ「トーハクなび」では、公式ウェブサイトと国立博物館所蔵品統合検索システムColBaseとの連携を図り、最新の展示情報や作品解説が常に更新されている。インタラクティヴコンテンツの提供及び展示室内に設置したビーコンとシステムの連動などにより、解説をスムースに提供し、作品への理解促進を図った。Google Analyticsのデータ、展示室内のビーコンのログデータにより、ユーザーログの集積も継続した。総合文化展関連の季節のイベントに合わせアプリ内のデジタルスタンプラリーを活用する、展示室で配布するワークシートにQRコードを掲載しアプリダウンロードへ誘導するなど、活用促進を図った。
エ　大講堂の月例講演会において、ヒアリングループの設置・管理と、聴覚補助を目的とする音声認識サービス「UDトーク」アプリを導入した。
オ　3年度「案内と地図」の配布を行った。また、4年度「案内と地図」（総合案内パンフレット）（7言語（8種））を制作した。なお、開館時間等流動的になっても配布できるよう、途中変更の多い部分は割愛、基本情報のみとするよう調整した。
カ　本館2階「日本美術の流れ」の3言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作し、配布した。
キ　引き続き、より基礎的な解説を盛り込んだ4言語のグループ解説パネルを設置したほか、個々の作品解説の各言語の内容を検討し、新デザインの題箋とともに一部の展示室で試験的に導入するなど、外国人にも分かりやすい展示解説の工夫に取り組んだ。
ク　文化財活用センターと共同で、本館特別3室に日本美術に親しむための高精細複製品や非接触体験展示を楽しめる「日本美術のとびら」を6月より開室した。また、親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」として、レプリカやデジタルコンテンツを活用した体験型展示を行った。恒常的に同コンテンツを含む日本文化体験が行える参加型展示室を整備し、「日本文化のひろば」として、4年1月に開室した。

【補足事項】
ウ　アプリの3年度のダウンロード数は以下の通りである。
・Android版「トーハクなび」1,517件(累計3,392件、2年3月31日公開)(旧「トーハクなび」累計23,483件　平成24年4月18日～2年4月7日公開)
・iOS版「トーハクなび」31,519件（累計35,451件、2年3月31日公開)(旧「トーハクなび」累計56,980件　平成24年4月18日～2年4月7日公開)

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画に基づき、館内のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、4言語での情報提供を行うなど、快適な観覧環境を提供できた。 トーハク新時代プランに基づく、館内のデジタルサイネージや誘導サイン、展示解説の整備や新たな展示室の開室など、計画どおりに事業を実施できた。 また、公開中のアプリ「トーハクなび」は計33,036件のダウンロード実績をあげた。自宅でも使用できるほか、総合文化展利用者へのダウンロード誘導施策により、より広い範囲の来館者への活用を促進した。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の初年度として、4言語による解説等の掲出の継続と、館内施設のバリアフリー化の充実、トーハク新時代プランに掲げる展示室リニューアル工事の推進等計画を推進できた。 新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来の手法を変更せざるを得なかった部分もあるが、鑑賞ガイドアプリの活用、体験型展示の運営の工夫などにより一定の成果を上げられた。今後も高齢者・障がい者・外国人・乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行うための整備を推進していく。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1231B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)（４館共通）ア、イ、(京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川暁

【実績・成果】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展において、題箋及び解説文、並びに音声ガイドを用いて情報提供を行った。題箋や解説文、平常展音声ガイドは4言語（日・英・中・韓）対応、特別展音声ガイドは新型コロナウイルスの影響により、2年度に引き続き2言語（日・英）対応を行った。
イ
・特別展の題箋にユニバーサルデザインのフォントを使用し、より多くの来館者にとって読みやすい表示ができた。
・来館者の通行する位置にあるグレーチング（雨水側溝蓋）の目が粗く（隙間3cm程度)、杖利用者が躓く恐れがある事から、目の細かいもの（隙間１cm以下）に交換した。
・屋外便所の洗浄スイッチが非接触式のため、視覚障がい者がスイッチの存在に気がつかない恐れがある事から、押しボタン式に交換した。
・新型コロナウイルス対策として、機械換気設備の設定を調整して展示室における必要換気量の確保を行った。

（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（7言語（8種)：日・英・中（簡体字・繁体字)・韓・仏・独・西）を継続配布した。
イ　デジタルサイネージを活用して、カフェ・レストランを含めた館内各施設を紹介できた。また、Ｌアラート対応可能となる設備を整えた。
ウ　スマートフォンアプリを活用した体験学習型コンテンツ開発の一環として、Wi-Fi環境についての情報発信を行うため、「Wi-Fiマーク」を付与した屋外展示物の解説パネルへのリニューアルを実施した。
エ　2年度作成した名品ギャラリーのジュニア版音声ガイドについて、3年度も継続して使用し、若年層の音声ガイド利用増加を促すことができた。

【補足事項】
（4館共通）
イ
・特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」の題箋にユニバーサルデザインフォントを採用し、特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」でも引き続きユニバーサルデザインフォントを使用した。

グレーチング交換工事状況

屋外便所の洗浄スイッチ交換状況

「京の国宝」展時の題箋

音声ガイド利用台数
・凝年国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」(2言語　日・英）2,495台
・特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」(2言語　日・英）4,662台
・特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」(2言語　日・英）4,691台
・名品ギャラリー（4言語　日・英・中・韓）1,808台
　うちジュニア版音声ガイド（4言語　日・英・中・韓）84台

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に掲げる館内施設のバリアフリー化等を行い、特別展の題箋フォントのユニバーサルデザイン化を実施したことで、より多くの来館者が観覧しやすい環境を整えることができた。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 特別展の題箋フォントのユニバーサルデザイン化や、多言語化についての機構内他館との意見交換会を実施することで、観覧環境の向上を図ることができた。また、中期計画の初年度として館内施設のバリアフリー化等も行い、中期計画を遂行できている。今後も継続して実施することで、良好な観覧環境の提供を行いたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1231C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)（４館共通）ア、イ、(奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　平常展及び各特別展において題簽・解説パネルを4言語対応した。また、特別展「奈良博三昧」においては低年齢層向けの平易なパネルを作成した。
イ　特別展「聖徳太子と法隆寺」、特別展「奈良博三昧」、「第73回正倉院展」、及び特別展「国宝 聖林寺十一面観音」では、有料の音声ガイドスクリプトを準備し、耳の不自由な来館者にも音声ガイドと同じ内容を楽しんでもらえるよう工夫した。なお、すべての展覧会でスクリプトの貸出実績があった。
（奈良国立博物館）
ア　環境整備のためのクラウドファンディングを初めて導入した。
イ　公式キャラクター及びイラスト、ピクトグラム、日英中韓の4言語を用いた館内看板を新たに作成、更新等を行い、外国人来館者や障害者にもわかりやすい内容で、より快適な観覧環境を確保するよう努めた。
ウ　3年度は、来館者数を制限している状況などを踏まえ、例年正倉院展の際に実施していた看護師派遣の依頼は取り止めた。ただし、救護室及び授乳スペースを設置し、来館者が安心して観覧できるよう努めた。
エ　館内案内リーフレット（7言語：日、英、中：簡体字・繁体字、韓、仏、独、西）を制作する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、入館者が減少し残部があったため3年度は制作しなかった。公式Twitterにて、展覧会の開館状況などを情報発信することで周知に努めた。
オ　総合案内カウンターに外国語（英語、中国語）対応ができるスタッフを常駐させ、外国人来館者への対応を充実に努めた。

【補足事項】
・新型コロナウイルスの感染拡大予防対策として、2年度に引き続き、手指用アルコールの設置や入館時の検温などの対策を行い、来館者が少しでも安全な環境で観覧できるよう努めた。
・展示室の適正な温湿度管理のため、空調機メンテナンス計画に基づき、機器の修繕を行った。
・3年度の特別展のうち、特に混雑が予想された「第73回正倉院展」では、快適な観覧環境を実現するため、入館方法についての案内看板やコインロッカーの利用案内看板を作成した。
・館内の茶室「八窓庵」及び日本庭園について、バリアフリー化を含めた改修のための資金を募るため、クラウドファンディングを行い、554名から10,625,380円の寄附を得た。それにより、庭園を快適な環境で公開するための改修準備を進めることができた。

「第 73 回正倉院展」
案内看板の様子

茶室・庭園改修のための
クラウドファンディング

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 混雑が予想された展覧会では新規の看板を作成するなど、より快適な観覧環境を提供に努めた。新型コロナウイルスの影響を踏まえ、紙媒体の印刷及び配付が積極的には行えなかったものの、公式TwitterやYouTubeを利用したデジタル配信による周知及び情報提供ができた。 また、茶室及び日本庭園の改修を実施するため、当館として初めてクラウドファンディングを導入し、外部資金を獲得したことは、高く評価できる点である。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 音声ガイドスクリプトの提供及び題箋、看板等の多言語化や、SNSを活用したPRを実施することで、あらゆる立場の来館者に博物館を楽しんでもらえるよう努め、中期計画を遂行できている。 また、環境整備のための資金獲得策としてクラウドファンディングを初めて導入するなど、新たな手法を取り入れたことは評価に値することであり、中期計画を順調に遂行していると判断した。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1231D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-1)（４館共通）ア、イ、（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長　白井克也 課長　楠井隆志 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　文化交流展（平常展）、特別展（「よみがえる正倉院宝物」「皇室の名宝」「海幸山幸」「最澄と天台宗のすべて」）において、題箋及び作品解説について４言語（日、英、中、韓）にて情報提供を行った。
イ
・特集展示「古代ガラスの世界」におけるパネル類及び題箋、特集展示「手わざ」における題箋についてユニバーサルデザイン（以下 UD）フォントを使用し視認性を高めた。また、小企画「ならべてわかる本物のひみつ」においてもパネル類及び題箋に UD フォントを用いたほか、点字解説及びチラシを作製した。
・新型コロナウイルスの感染防止に配慮し、以下のような対応を行った。
・非接触サーモグラフィーでの検温の実施。
・来館者へマスク着用必須を喚起。
・来館者同士の適切な距離の確保の呼びかけを実施。
・スタッフはフェイスシールドやマスクを着用。
・足踏式消毒液を増設。
・密を避けるため展示室毎の滞在可能者数を制限（文化交流展示室：400人、特別展示室：650人）。
・10人以上の団体はお断り（11月2日から受け入れを再開）。
（九州国立博物館）
ア　特集展示「范道生」及び特集展示「古代ガラスの世界」において、ボックス状の解説台を設置し、解説や年表など、副次的な情報の掲出につとめた。また、特集展示「手わざ」において、映像やプロジェクションマッピングを使用して情報を提供し、理解の促進に努めた。
イ　展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新した。
ウ　館内案内リーフレット（7 言語：日、英、中（簡体字）、韓、仏、独、西）を制作し配布していたが、3 年度より中国語(繁体字)でのリーフレットも新たに制作し、配布した。
エ　文化交流展（平常展）において４言語（日、英、中、韓）の音声ガイドによる情報提供を行った。文化交流展では、4 年 4 月より既存音声ガイドを廃止し、視覚及び聴覚障がい者や外国人を含めて誰でも利用できる新ガイドシステムを導入する計画である。3 年度はこの新ガイドシステム実用化に向け、新システムの構築と解説原稿の作製を進めた。

新ガイドシステム館内職員向け体験会

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、来館者が安心・安全に観覧できる環境づくりを行った。また、題箋にUDフォントを用いたり、点字つきチラシを配布したりする等の館内におけるUD化の取り組みを継続できている。さらには、音声ガイドに代わる新ガイドシステム実用化に向けた具体的な検討も進んでおり、年度計画を順調に遂行できた。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、館内のUD化や、文化交流展の音声ガイドに代わる新システムの導入準備などを行った。また、文化交流展及び特別展において、題箋及び作品解説について4言語（日、英、中、韓）にて情報提供する等、多くの来館者が快適に過ごせる観覧環境づくりを継続し、中期計画を円滑に遂行できている。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1232A

中項目	１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】・Ⅰ-1-(2)-③-2)（4館共通）ア、イ、ウ、エ（東京国立博物館）ア

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（４館共通）
ア　来館者アンケートの集計方法を、2年度に引き続き会場内に設置する形から、直接来館者に依頼する形に変更したことにより、より幅広い意見を集めることができた。
イ　創立150周年を記念して、貴重な写真資料をふんだんに使用したカレンダーを監修し、ミュージアムショップにて販売した。
ウ
・特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」では、日時指定枠確保のため、通常より開館時間を延長し（当初は9時～19時、臨時休館を挟んで再開後は8時30分～20時）、また、臨時休館による会期日数減を補うため会期を延長した。さらに、休館予定であった6月14日（月）は午後から臨時開館し、より多くの方が予約できるようにした。また「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46」では、来館者層が学生、仕事をしている方が多いことが想定されたため、金曜・土曜は20時まで閉館時間を延長するとともに、会期後半の11月21日（月）は臨時開館し、閉幕日の11月28日（日）は20時まで閉館時間を延長した。特別展「ポンペイ」では、会期途中から週末の日時指定枠が埋まる状況になったことから、3月からの金・土・日曜は、18時閉館と開館時間を1時間延長した（最終週の3月28日(月)からは全日18時まで、4月1日（金）、2日（土）は20時まで延長）。
・今まで春と秋の期間限定開放であった庭園について、大規模リニューアルを実施し、3年度より庭園全体の通年開放を始めた。
（東京国立博物館）ア
・特別展「最澄と天台宗のすべて」の会期中に、平成館ラウンジで特設カフェ「梵字カフェ」をオープンし、展覧会と関連したラテ等を販売した。
・3年度も敷地内にキッチンカーを2台設置し、飲食物の販売を行った。「博物館でアジアの旅」期間中は、アジア系の飲食店、特別展「ポンペイ」期間中はイタリア料理にそれぞれ特化した店舗を重点的に出店するなどし、特別展等の一層の盛り上げを図った。また、「博物館でお花見を」期間中は、リニューアルした庭園内にキッチンカーを1台追加し、テーブルと椅子も増やして来館者が庭園内でゆっくりくつろげるようにした。

【補足事項】（４館共通）
ウ　特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」は新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館により、開催日数が当初予定より少なくなることとなったが、作品保護に十分配慮し、文化庁及び所蔵者、共催者とも調整しながら、会期及び開館時間を柔軟に変更・延長し、少しでも多くの方が予約できるよう努めた。また「春夏秋冬／フォーシーズンズ　乃木坂46」では、乃木坂46の東京ドーム公演日に展覧会の予約も増えることが想定されたため、共催者と協議し、休館日の臨時開館を決定し、より多くの方に観覧の機会を提供することができた。
エ　3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、総合文化展の夜間開館は実施を見送ったため、夜間開館時のアンケートは実施できなかった。
（その他）庭園通年開放により、春・秋だけに限らず1年を通じて庭園を散策することができ、来館者からも大変好評であった。

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	66%	69%	B		68.1	71.3	71.7	65.4

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	３年度も新型コロナウイルス感染拡大による入館者数の大幅減のため、法隆寺宝物館ガーデンテラスのレストランが２年度に引き続き閉店となったことが影響し、満足度が２年度同様低い結果となった。 しかしながら、２月中旬からは、東洋館のレストランのメニューをコロナ禍前と同等の品数に増やし、３月中旬以降の週末を中心にレストラン前のスペースでカフェの営業を開始するなど改善を行った。 なお、ミュージアムショップについては新商品の積極的な開発などもあり、高い満足度となった。また、館内スタッフの対応についても２年度を超える満足度とすることができた。 以上、総合的には十分に目標を達成していると考える。引き続き、レストラン及びキッチンカーの一層の充実など、来館者の食事の選択肢を増やすことに努め、レストランの満足度を上げられる方策を検討する。

【中期計画記載事項】来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外国人来館者がしばらく見込めない状況ではあるが、混雑する特別展では早朝開館、夜間開館など柔軟に開館時間を延長できるように共催者とも事前に検討するとともに、総合文化展についても状況を見て夜間開館が再開できるよう準備をする。 キッチンカーの店舗を展覧会に関連した内容にするなど、キッチンカー業者とも連携できたことにより、展示の盛り上げも図ることができた。今後も引き続き飲食店と展示との連携を図っていく。 来館者の接触がある券売機のタッチパネル、ロッカー、エレベーター等には、光や風によって除菌ができる処置を行い、またその処置をしていることをシールで周知し、来館者が安心して利用できるようにした。今後も来館者が安心・安全に利用できるような感染防止対策をしていく。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1232B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-2)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、(京都国立博物館・奈良国立博物館）ア

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（4館共通）
ア　展覧事業、観覧環境等に関する来館者アンケートを4言語（日・英・中・韓）で実施し、幅広い意見の把握に努めた。
イ
・ミュージアムショップでは、利用者等の意見を参考に、オリジナルグッズを開発し、展覧会に応じた関連商品等を取り揃えた。カフェでは、展覧会に応じたオリジナルメニューを提供した。
・来館者のニーズの把握及びサービスの向上のため、ミュージアムショップ運営業者との連絡会議を開催し、情報交換及び新たな取組の検討を行った。
ウ
・特別展では、時間ごとの来館者数データに基づき、2年度に引き続き開館時間を30分前倒しする早朝開館を実施した。また新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」では金・土曜日の開館時間を20時までとする夜間開館を実施。
・特別展「京の国宝―守り伝える日本のたから―」と特別展「畠山記念館の名品―能楽から茶の湯、そして琳派―」では新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のため事前予約優先制を導入し、展示室内の混雑緩和を避けることができ、良好な観覧環境を提供することができた。
エ　特別展時に早朝開館、新春特集展示に夜間開館を実施したことにより、それぞれ来館者アンケート調査を行うことができた。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　『博物館だより212号』に龍谷ミュージアム岩田朋子氏による凝年国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」の展覧会評を掲載した。

【補足事項】
（4館共通）
イ
・公式キャラクター「トラりん」が研究員から日本美術の基礎を学ぶという設定で日本美術の入門書籍シリーズの4巻（全4巻）を監修した。
・収蔵品及び「トラりん」をモチーフに、京都の伝統工芸や、SDGsの観点から地産地消・脱プラ・福祉・フェアトレード系素材を使うことなどを考慮しつつ、オリジナルグッズ開発に向け検討を行った。

新規オリジナルグッズ
（館蔵品をモチーフとしたマグネット）

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	67.9%	64%	B		63.4	73.1	67.4	74.5

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響により、海外からの来館者数は2年度に引き続き減少したが、感染防止対策の多言語案内を継続することにより、多様な来館者が安心して観覧できる環境を整えることができた。 また、観覧環境に関するアンケート満足度は、目標値を達成できた。 満足度調査及び運営業者との情報交換により、利用者等の意見を把握し、サービス向上に努めることができた。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	早朝開館や夜間開館の実施、事前予約優先制の導入により、柔軟な開館時間の設定や混雑時対応を実施することができた。 また、満足度調査や利用者等の意見の把握、サービス向上に向けた各種取り組みにより、中期計画を順調に遂行できているといえる。引き続き、来館者の満足度調査を行い、来館者のニーズに応えられるような運営を行っていくよう努力していく。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1232C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-2)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、(京都国立博物館・奈良国立博物館）ア、(奈良国立博物館）ア、イ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　通年で記述式アンケートを実施するとともに、一部期間には試行的にウェブサイト上でのアンケートを実施した。外国人来館者を含め、寄せられた意見・要望は速やかに館内の関係部署と共有し、適宜改善に努めた。
イ　アンケート及びウェブサイトを通じて寄せられたミュージアムショップやレストランへの意見・要望をもとに、展覧会に合わせた特別なメニューを提供するなど、サービス向上に努めた。
ウ　新型コロナウイルスの影響が続いている現状に鑑み、従前実施していた毎週金曜日・土曜日の夜間開館は3年度も実施しなかった。ただし、特別展会期中には平常展を含めて夜間開館を実施した。
エ　夜間開館についての意見を得るため、夜間開館時にも記述式アンケートを実施した。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　ニコニコ美術館の映像配信において、展覧会開催に御協力いただいた専門家に出演いただき展覧会評を講評いただいた。。
（奈良国立博物館）
ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努めた。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズ及び奈良博オリジナルグッズ（元気が出る仏像シリーズ）の開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。

【補足事項】
（４館共通）
ア　来館者や職員から、なら仏像館の入口がわかりづらいという声が多く寄せられたため、入口の場所を案内する掲示物の作成やウェブサイト上での表記の見直し等を行った。
（奈良国立博物館）
ア　特別展にちなんだ限定メニューを提供し、利用者へのサービス向上に努めた。
イ　オリジナルキャラクターをあしらった新たなグッズや、第73回正倉院展で展示される宝物等をモチーフにしたグッズ等をミュージアムショップで販売した。

特別展「聖徳太子と法隆寺」
お粥セット

特別展「国宝 聖林寺十一面観音」
にゅう麺セット

元気が出る仏像シリーズ

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	68.9%	74%	C		70.5	75.8	81.9	71.4

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
2年度に引き続き新型コロナウイルスの影響もあり、アンケート回収数が少なく観覧環境に対するアンケート満足度が、目標値を下回る結果となった。一方で試行的にウェブサイト上でのアンケートを実施しアンケート回収数の増加に努めるなど、意欲的な取り組みを行った。また、アンケート及びウェブサイトを通じて寄せられた意見・要望をもとに、レストランでの展覧会に合わせた特別なメニューの提供や、ショップでのオリジナルグッズの開発など、サービス向上に努めることができた。なお、ミュージアムショップやレストランについては利用していないという声も多いため、館内各所に案内看板を設置するなど、利用率向上のため周知に努めた。これらの実績をふまえ、アンケート満足度は目標値には達しなかったものの、それ以外に一定の成果が認められるため、B評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により、特に地下にあるレストランとミュージアムショップの利用者数が激減したことも影響し、3年度のアンケート満足度は目標値に達しなかったが、ショップではECウェブサイトを立ち上げ、オリジナルグッズを開発するなど、サービスの低下になることなく運営したため、中期計画の初年度として十分な成果をあげているといえる。
通年で記述式アンケートを実施し、得られたアンケート結果は館内で共有した上で改善に取り組んだ。4年度以降も引き続き満足度向上のために努力し、中期計画を遂行していく。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1232D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
・Ⅰ-1-(2)-③-2)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、（九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課	事業責任者	課長　白井克也 課長　楠井隆志 課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・文化交流展において、来館者からのご意見に対し、検討及び対応を行った。キャプションやパネルの記載内容に関する指摘事項については、展示担当者と迅速に協議し、修正すべきと判断した場合は早急に改善に取り組んだ。
・留学生の日に合わせて留学生に対するアンケート調査を実施し、得られた意見を館で共有した。
イ　福岡県の特産品有明のりを使用した、記念品を製作し、文化交流展での新春特別公開の展示開始に合わせて、来館者へ配布した。
ウ　夜間開館について、4年2月の再開に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染再拡大の影響により中止した。
（九州国立博物館）
ア　2年度に引き続き、レストランとカフェの休店が続いている。3年度はレストランの営業再開に向け、設備の改修に必要な予算措置をした。また、レストランの営業再開までの間、来館者サービスの向上を目的とし、キッチンカーの導入準備を行った。キッチンカーは4年度より導入予定である。
イ　新型コロナウイルスの影響により、来館者が大幅に減少する中において、ミュージアムショップの新たなオリジナルグッズを製作することは難しい状況であるが、芦屋釜関連の商品など地域の特産品を販売する等の工夫を行った。

【補足事項】

新春特別公開に合わせて配布した記念品

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	81.1%	68%	B		63.7	61.6	70.2	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新春特別公開に合わせ、記念品を製作及び配布する等、サービス向上に寄与することができた。また、キッチンカーの導入手続きは来館者のサービス向上へつながるものであり、年度計画を達成できている。 夜間開館は新型コロナウイルスの影響によりかなわなかったが、今後も再開時期の検討を継続する。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画初年度として、来館者アンケートを実施し、来館者の意見収集に努めた。レストランの営業再開に向け、耐用年数が経過している設備等の改修に必要な予算措置をするとともに、休店中の来館者へのサービス向上のため、4年度からのキッチンカー導入手続きを行っており、中期計画を遂行している。